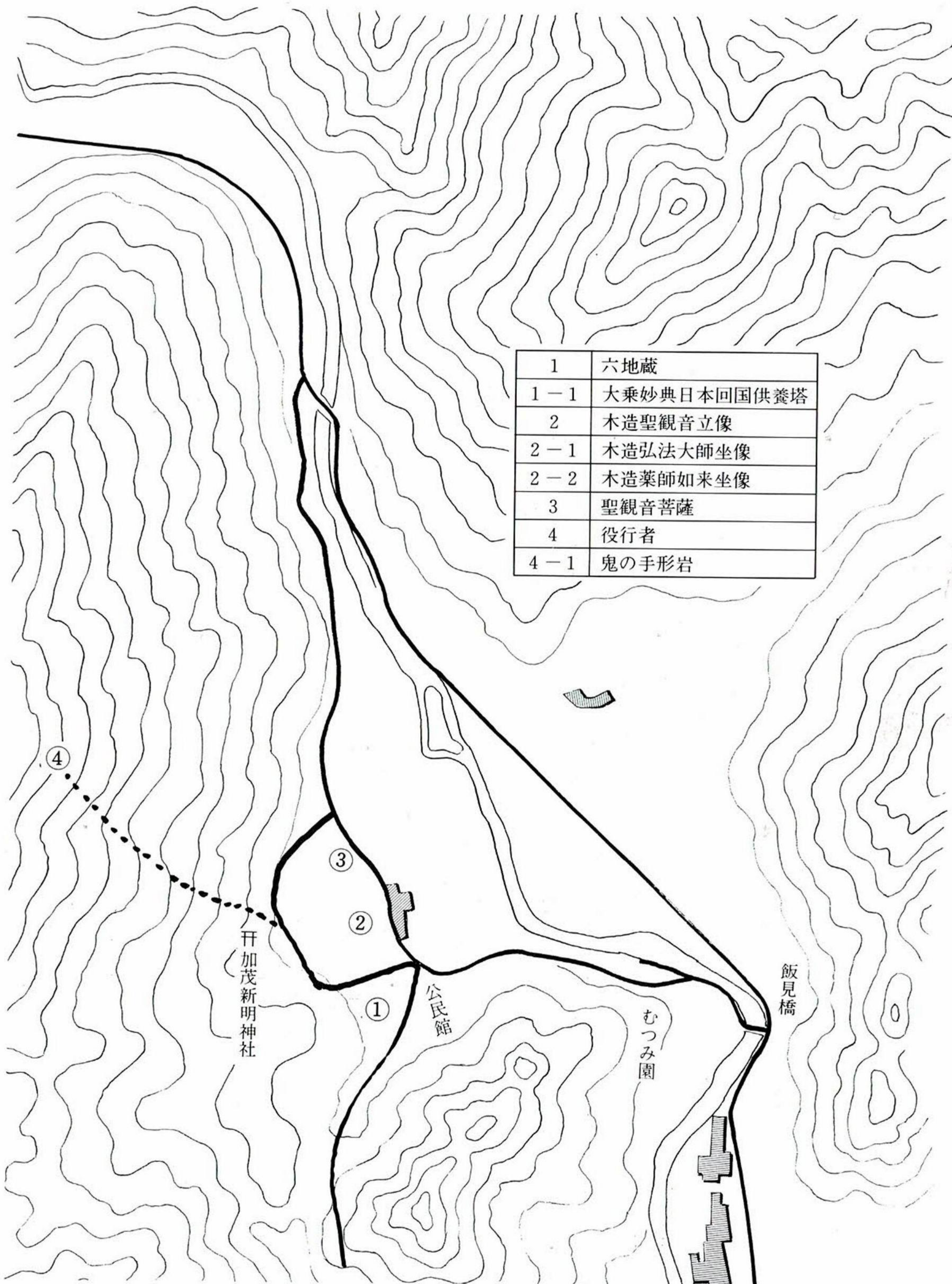


飯 見

飯見地区 所在位置図



1	六地藏
1-1	大乘妙典日本回国供養塔
2	木造聖観音立像
2-1	木造弘法大師坐像
2-2	木造薬師如来坐像
3	聖観音菩薩
4	役行者
4-1	鬼の手形岩

干加茂新明神社

公民館

むつみ園

飯見橋

飯 見



(町所有の航空写真より)

飯見～道谷

六地蔵

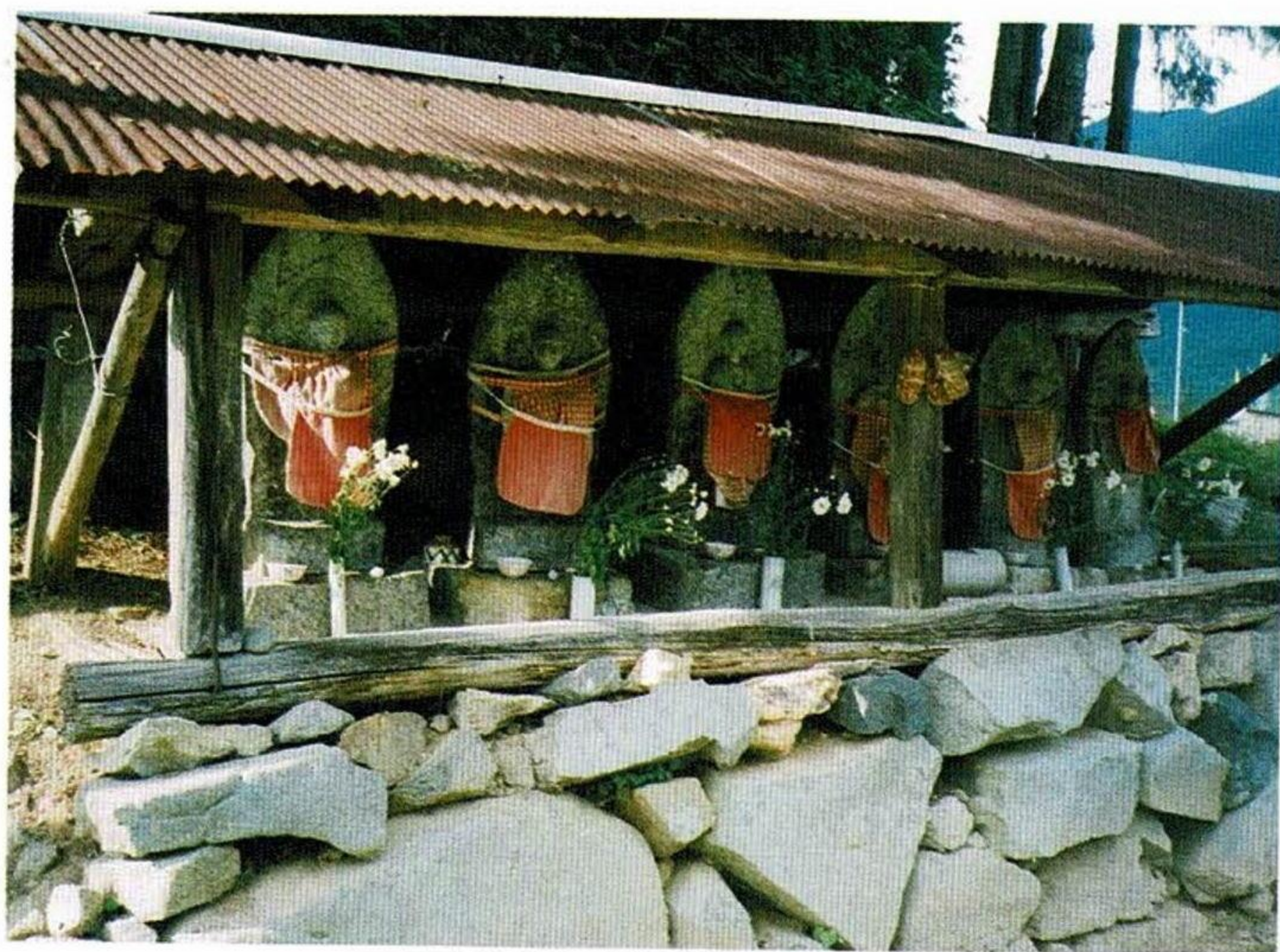


写真 No.1

場所 飯見部落の有賀に通じる道端

建造時期 宝暦14年
(1764年)

4月頃

管理者 飯見部落

物件にまつわる話

六地蔵とは、一切の衆生が善悪の業によっておもむき、住む六つの迷界、すなわち、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上からの苦患を救うという六種の地蔵のこと。
村の境にお祀りされ旅人の安全をお祈りした地蔵さん。

大乘妙典日本回国供養塔

写真 No.1-1

場所 飯見部落の有賀に通じる道端

造立時期 江戸時代
寛政6年
(1794年)

11月8日

管理者 飯見部落



物件にまつわる話

六部(ろくぶ)といって、死後の冥福を祈るため、鉦(かね)をたたき、鈴を振り、或いは厨子(ずし)を負い、家ごとに銭を乞い歩いた人の供養の墓。

この墓は九州天草の平治という人を祀っている。

前面に、大乘妙典、日本回国道行本源信士。右に九州天草大嶋郷之住人、俗名平治。左に寛政6年寅年閏11月8日。石碑世話人 江戸庄蔵 亀右衛門と書かれている。

木造聖観音立像



写真 No.2

場 所 飯見部落の観音堂

建立時期 江戸時代

管 理 者 飯見部落

物件にまつわる話

檜 金泥塗り 像高 112.5cm

わりは
割矧ぎ

ヒノキの一材で像を作り、前後に材を割りはなして木心を削りぬいた割矧（わりはぎ）造りの像である。右手は胸前へ上げ、左手に蓮華を持つ。肉身部は漆、衣部は金泥を塗る。両足先と両腕から下がる天衣は後補である。スマートな像であるが、表情や、衣のしわ（衣文）の作風からみて江戸時代の建立と思われる。

木造弘法大師坐像

写真 No.2-1

場 所 飯見部落の観音堂

建立時期 江戸時代

管 理 者 飯見部落

物件にまつわる話

彩色

観音像の向かって右側にある。右手に五鈷杵（ごこしよ）、左手に数珠を持つ僧形像は弘法大師の特徴である。



木造薬師如来坐像



写真 №.2-2

場所 飯見部落の観音像堂

建立時期 江戸時代

管理者 飯見部落

物件にまつわる話

一木造り ^{しっぽく}漆箔 像高36.5cm

観音像に向かって左側にある。両手を膝の上で重ねる印相（法界定印）の上に薬壺を置く。衲衣（のうえ）を通肩（つうけん）にまとう。一木造りで膝部は別材を寄せる。像底に「飯見村」の墨書銘がある。

地蔵菩薩立像（木像）

写真 №.3

場所 飯見321 一野春巳氏屋敷内

建造時期 不明

所有者 飯見 一野 株

管理者 一野春巳

物件にまつわる話

以前は一野嘉蔵氏宅に祀られていたが、昭和6年に現在の場所に移転された。普通の地蔵さんは坐像であるが、こうした立像は珍しいと言われている。水を供えて、それを戴くと病によく効くと言われ、信者が多い。



えんの ぎょう じゃ 役 行 者



写真 No.4

場 所 飯見部落の部落有林
通称三ノ岩

建立時期 不明

管 理 者 飯見部落

物件にまつわる話

奈良時代の山岳呪術者、役小角（えんのおづぬ）をまつている。役小角は修験道の祖といわれる人であり、護摩（ごま）を焚いて呪文をととなえ、祈禱（きとう）を行い神験（神のお告げ）を修得する仏教の一派のこと。（山伏とも言う）

日本固有の山岳信仰のおもかげを伝えている。

鬼の手形岩

写真 No.4-1

場 所 飯見部落 通称三ノ岩

管 理 者 飯見部落

物件にまつわる話

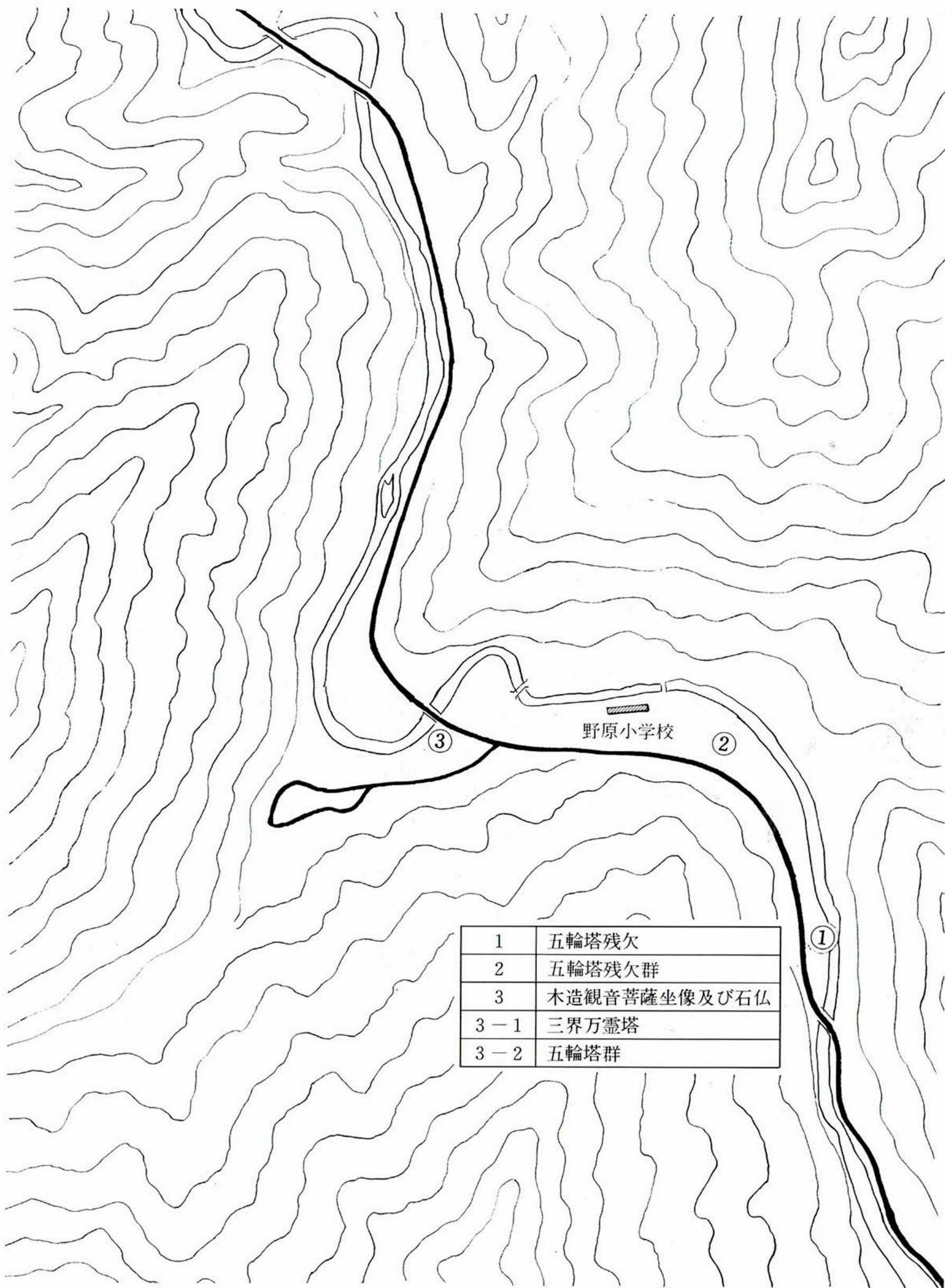
飯見行者山の役小角（えんのおづぬ）が祀ってある祠（ほこら）の上にある。

畳一枚ほどの大石に、鬼の手のこぶの形があるところから、村人は鬼の手形岩といっている。

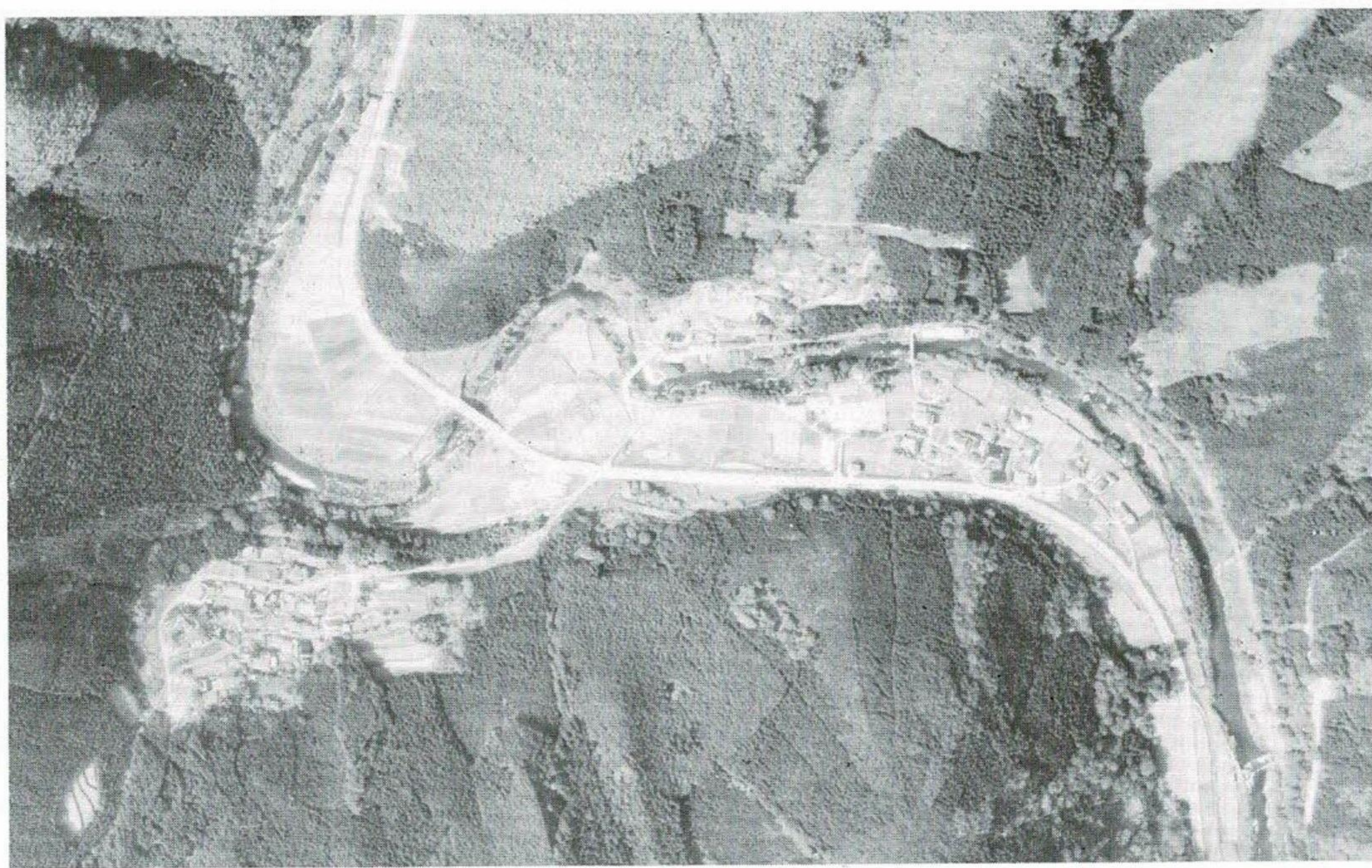


野 尻

野尻地区 所在位置図



野尻



五輪塔残欠



写真 №.1

場 所 野尻下部落の
発電所えんて
い。

造立時期 江戸時代

管 理 者 北條章

物件にまつわる話

五輪塔残欠を積み上
げたものであるが、下
から約2mほど石垣を

積み上げ土台を完全なものにし、玉砂利を敷きお花を立て、お祀りされている。

五輪塔残欠群

写真 №.2

場 所 野尻部落の植
田隆氏宅の裏

造立時期 江戸時代

管 理 者 近隣の人々

物件にまつわる話

近隣の人達も昔の墓
地として、又聖地とし
て時にはお供えしたり
お花を立てたりして丁
寧に祀っている。



木造観音菩薩坐像及び石仏

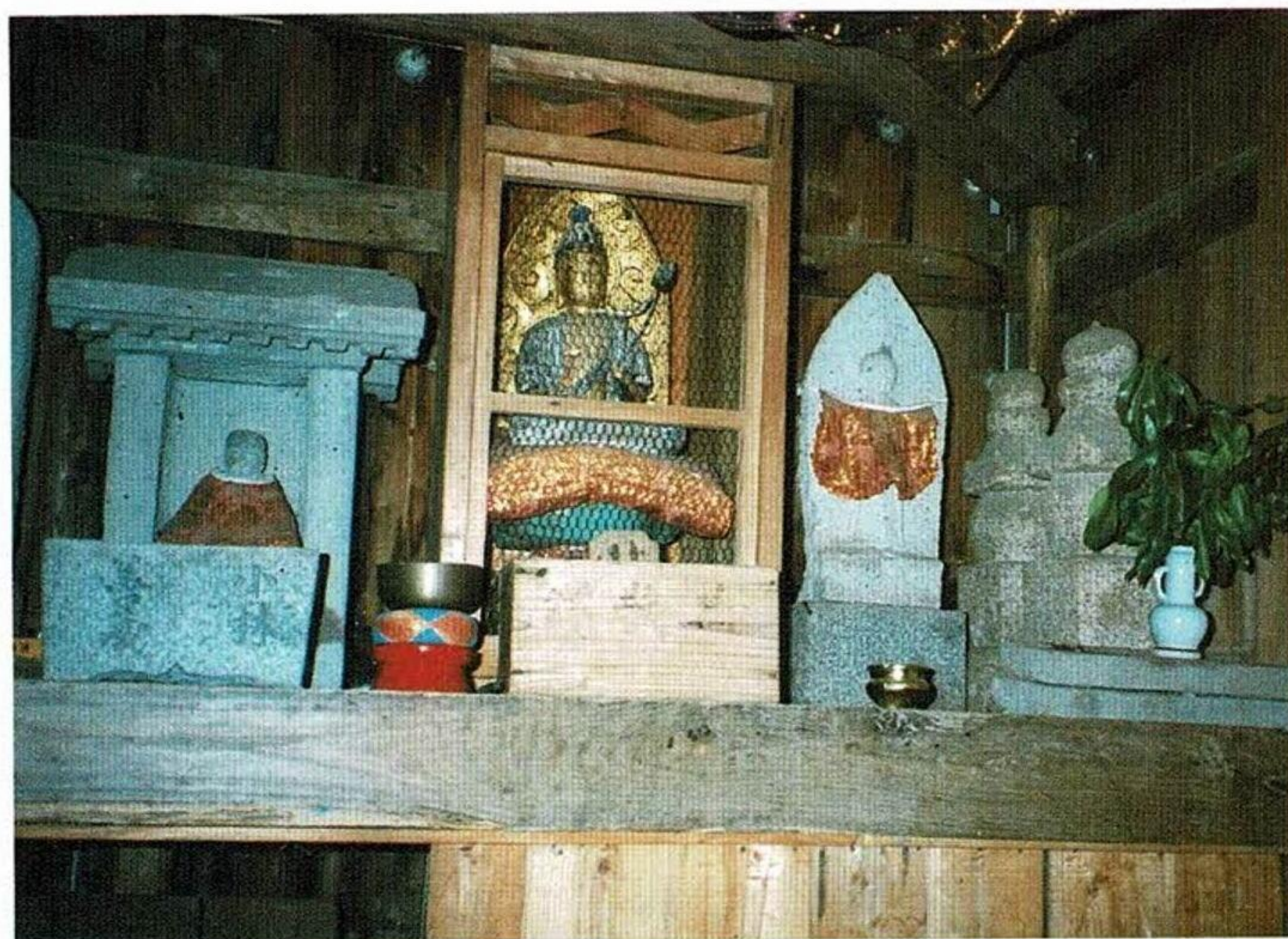


写真 No.3

場所 野尻部落林の
殿入口 お堂

建立時期 江戸中期頃

管理者 野尻部落

物件にまつわる話

あらゆる厄難を救い、
求められるものをあた
え仏身、童女、竜など
33種に身をかえられて
人々を救われるという。
堂内には地藏さん等多
く祀られている。

三界万霊塔

写真 No.3-1

場所 野尻部落の国道29号線、林の
殿入口

造立時期 正徳5年(1715年)

管理者 野尻部落

物件にまつわる話

皆木部落の三界万霊塔と同一石工の
作と思われる。



五輪塔群



写真 №.3-2

場 所 野尻部落の林
の殿入口

造立時期 室町時代後期
頃

管 理 者 野尻部落

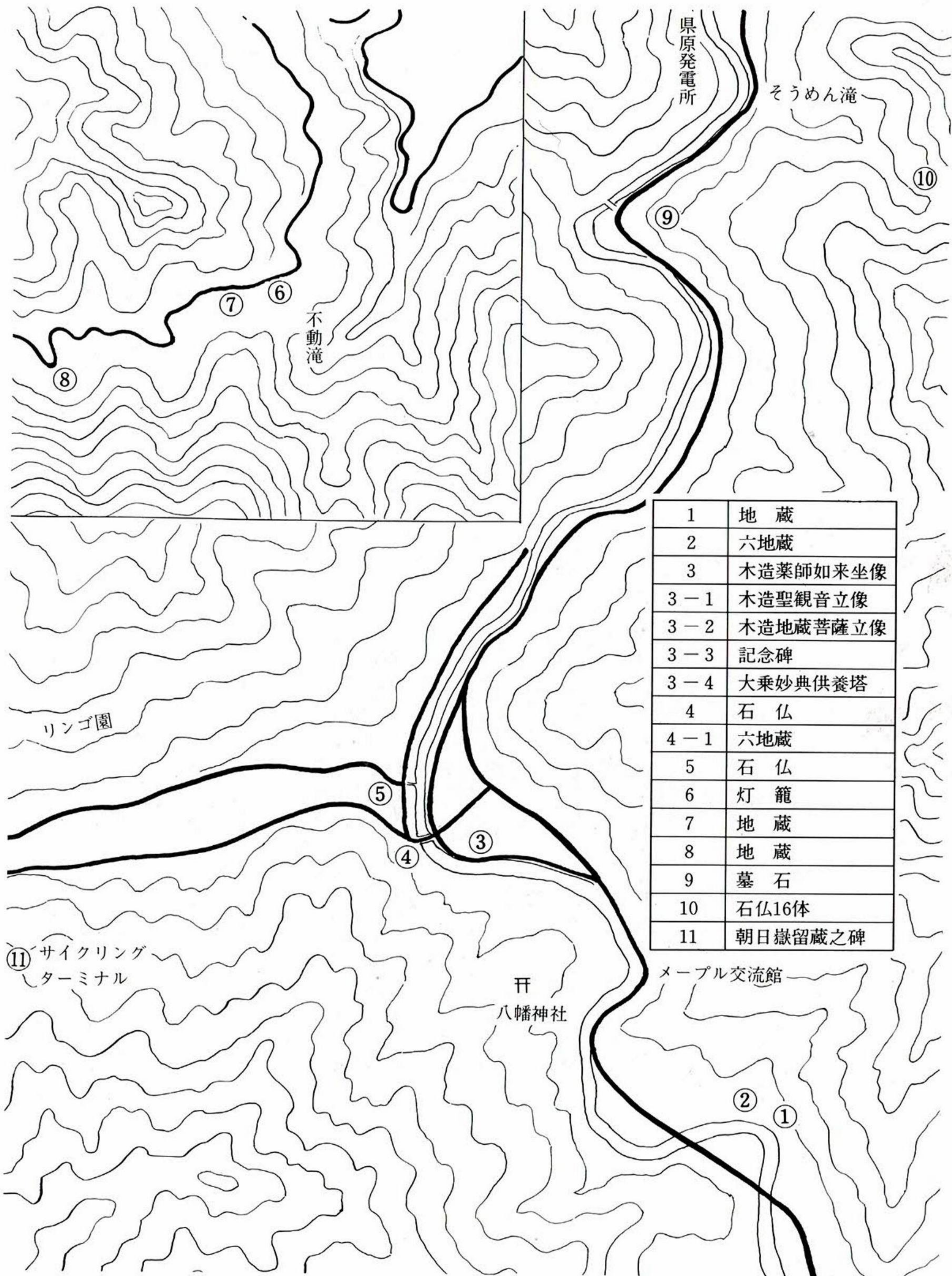
物件にまつわる話

部落内数ヶ所にあったものを一ヶ所に集めてお祀りしたもの。

大正2年にお大師堂の裏に集められた。

原有賀・原

原有賀・原地区 所在位置図



1	地藏
2	六地藏
3	木造薬師如来坐像
3-1	木造聖観音立像
3-2	木造地藏菩薩立像
3-3	記念碑
3-4	大乘妙典供養塔
4	石仏
4-1	六地藏
5	石仏
6	灯籠
7	地藏
8	地藏
9	墓石
10	石仏16体
11	朝日嶽留蔵之碑

原有賀・原



(阪本唯夫氏提供)

地蔵



写真 №.1

場所 原有賀部落の旧道入口すぐ

造立時期 明治26年6月吉日

管理者 原有賀部落

物件にまつわる話

昔、この付近はたいへんな登り坂であった。牛車に牛をもう一頭つないで登るほど大変な坂だった。そして何回となく谷に落ちる事故があったので、安全祈願の為、造立された。昔は、子どもが背のびをして沸き水を飲んでいましたが、現在は道すれすれになっている。

六地蔵

写真 №.2

場所 原有賀部落の
旧国道部落入口

造立時期 江戸時代後期

管理者 原有賀部落

物件にまつわる話

各集落入口に見られるのと同様のものである。

昔、牛馬車の通行の安全を祈願したものである。



木造薬師如来坐像



写真 No.3

場所 原部落の大師堂

建立時期 江戸時代

管理者 原部落

物件にまつわる話

漆箔 像高約80cm

通肩つうけんの衲衣のうえをまとい、左手に薬壺を持つ。金箔が全体に貼られ、材質構造は不明である。

表情は道谷の阿弥陀如来とよく似ており、同じ仏師の作と思われる。

木造聖観音立像

写真 No.3-1

場所 原部落の大師堂

建立時期 江戸時代

管理者 原部落

物件にまつわる話

漆箔 像高約70cm

右手を胸の前に上げ、左手に蓮華を持つ。全体に金箔が貼られ構造材質不明。

作風からみて、薬師像と同じ仏師の作と思われる。



木造地藏菩薩立像

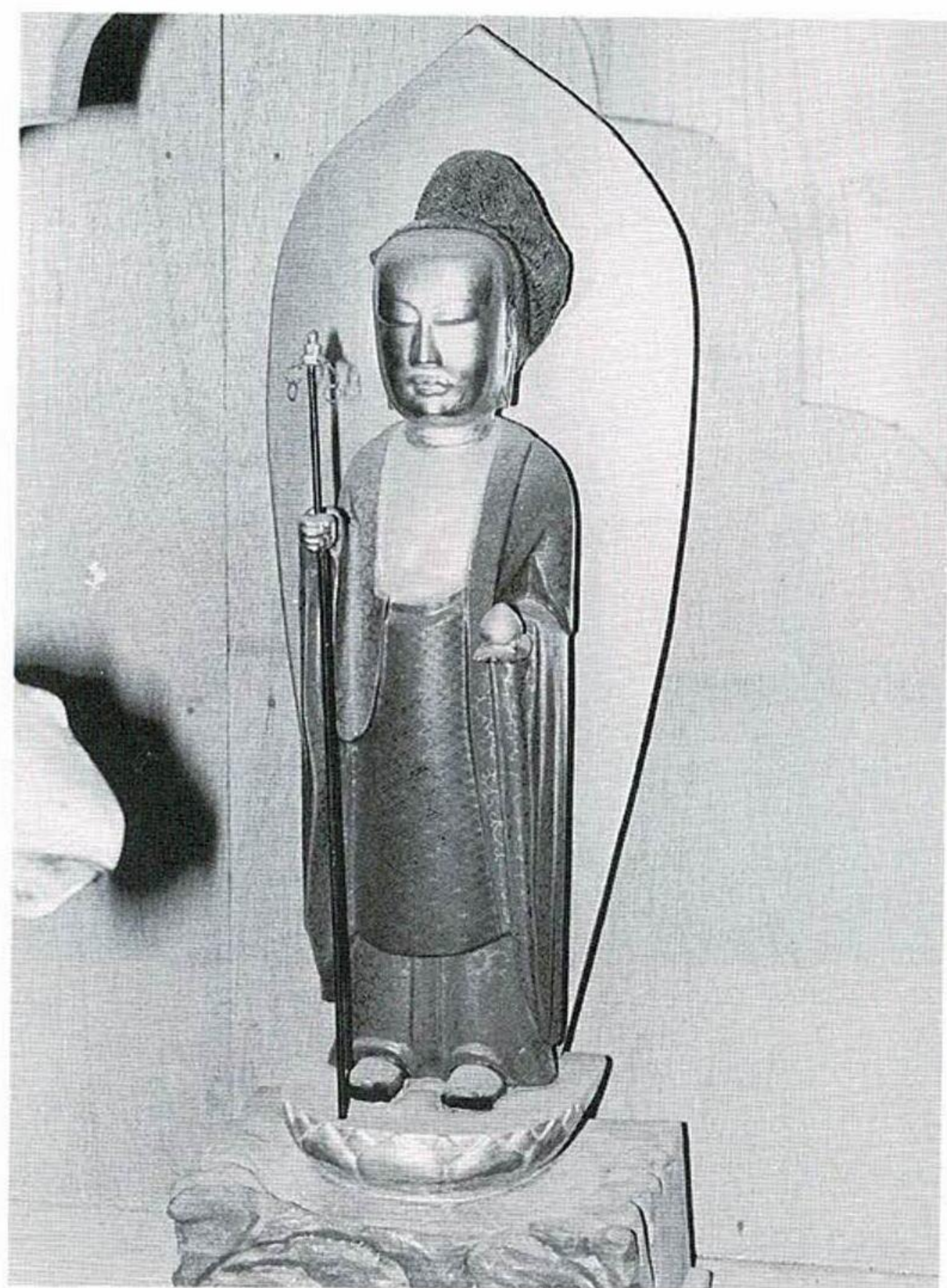


写真 №.3—2

場 所 原部落の大師堂

建立時期 江戸時代

管 理 者 原部落

物件にまつわる話

肉身漆箔^{しっばく}、衣彩色、像高約50cm

右手に錫杖^{しやくじょう}、左手に宝珠を持つ通例の地藏である。表情も前述、2例と共通性があり、大師堂中央にあるこの3例は、道谷の仏像を作った仏師の作になるものと思われる。

記 念 碑

写真 №.3—3

場 所 原部落の大師堂前広場

造立時期 昭和4年(1928年)

管 理 者 原部落

物件にまつわる話

原カンカケ不動尊奥の院をコースに組み込んだ八十八ヶ所を、不動滝周辺山岳に参道を新設した。

その奉祭の部落合議に基き、浄財寄附その他の記念碑である。



大乘妙典供養塔



写真 No.3-4

場所 原部落の大師堂前広場

造立時期 天保14年（1843年）

管理者 原部落

物件にまつわる話

文左衛門という人が村内安全や発展を祈願して奉納造立したもので、集落中央部で一世紀半にわたり信仰の対象となっていたが、位置は変わっているようである。

石 仏

写真 No.4

場所 原部落の原大
橋八丈側渡り
詰

造立時期 嘉永6年
(1853年)

5月

管理者 原部落

物件にまつわる話

造立当時より現在地に祀られていたようである。他の地藏尊、六地藏さんは他から移されたもので、カンカケ八十八ヶ所奉祭時のものである。

これより奥へ不動滝を中心に八十八の石仏が祀ってある。



六地蔵



写真 №.4-1

場所 原部落の原大
橋八丈側渡り
詰

造立時期 江戸時代末期
頃

管理者 原部落

物件にまつわる話

飯見集落の六地蔵さんのように「大乘妙典
供養塔」と同一場所に祀ってあったのが現在地
に移されたもので造立時期は江戸時代末期、ど
の集落入口にもある道祖神のようである。

石仏

写真 №.5

場所 原部落の堂元久士氏宅入口の
堂内

造立時期 嘉永6年(1853年)

管理者 原部落

物件にまつわる話

カンカケ八十八ヶ所奉祭時、一番札
所としていたのを現在地に移してお祭
りしたものである。



灯籠



写真 No.6

場所 原部落のカン
カケ

不動尊奥の院
正面参道

造立時期 天保14年9月
(1843年)

管理者 原部落

物件にまつわる話

天保14年9月吉日

志水平九郎（当時

の鉄山の総事業主御大）とある。

地蔵

写真 No.7

場所 原部落のカンカケ山
アンドが滝の側

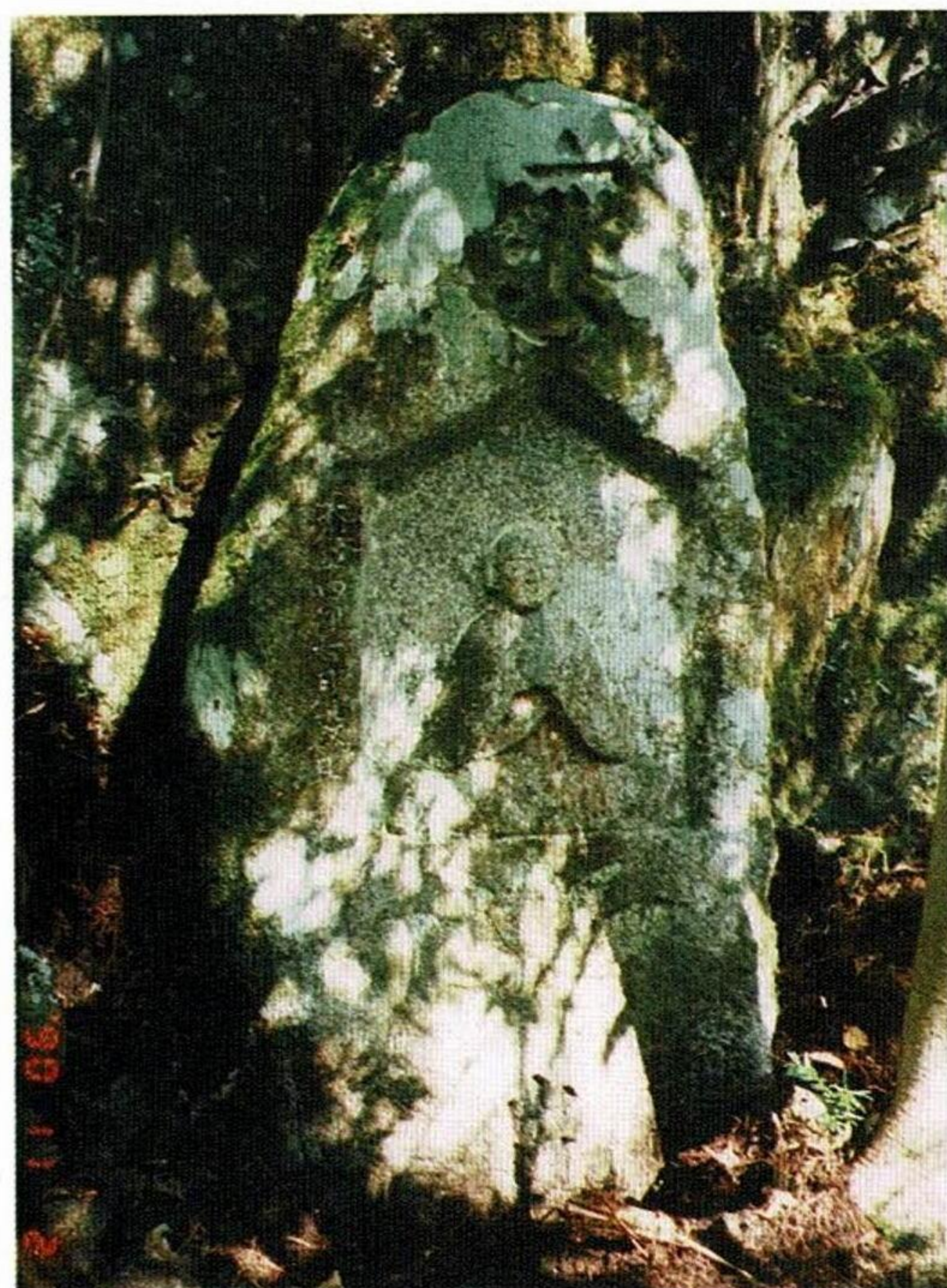
造立時期 天保14年（1843年）7月

管理者 原部落

物件にまつわる話

昔、鉄山で働く人々が、この滝まで
出ると濁っていた水が澄み安堵する
とあるので、この滝をアンド滝という。

鉄山の安全を供養したもの。



地 蔵



写真 No.8

場 所 原部落のカンカケ山
千種河内越え林道の途中山中
大岩の下に建つ

造立時期 天正元年（1573年）

管 理 者 山崎営林署

物件にまつわる話

岩陰にある為保存がよく、自然の河原石を利用し銅鐸形に彫りくぼめた中に地藏像を厚肉に陽刻してある。銘文は「天正元酉年世シ浅治良、浅左門」とあり「世シ」とは施主のことでカタカナがあるのは珍しく、この時代にカタカナのものはまだ県下では発見されていない。（表紙掲載）

墓 石

写真 No.9

場 所 原部落の赤西口
国道29号線のカーブ上の山中

造立時期 天保14年（1843年）

管 理 者 原部落

物件にまつわる話

教證院釋姓專勸居士

志水平九郎徳恒行年五十四
安政六亡未年九月初五日入寂

と刻字

鉄山の総事業主の御大の墓で側に近親者の墓が数基立ち並んで居る。



石 仏 16体



写真 №.10

場 所 原部落のマンガ谷行者山
(そうめん滝の上流)

造立時期 天保～安政
(1830年～1860年)

管 理 者 原部落

物件にまつわる話

長源寺及日ノ原坂口貞幸氏所蔵の古文書によると、天保年間「肥前嶋原温泉郡一乗院十三世有雄従来天保四年九月入寺」とある。天保十四年七月の石仏もあり、原カンカケ不動尊も奉祭したとの記録も見える。同地帯は但馬、因州の行者も奉祭していた修験場であったらしい。

あさひ だけとめぞう 朝日嶽留蔵之碑

写真 №.11

場 所 原部落のサイクリングターミナルの上

造立時期 昭和43年 6月

管 理 者 原部落

物件にまつわる話

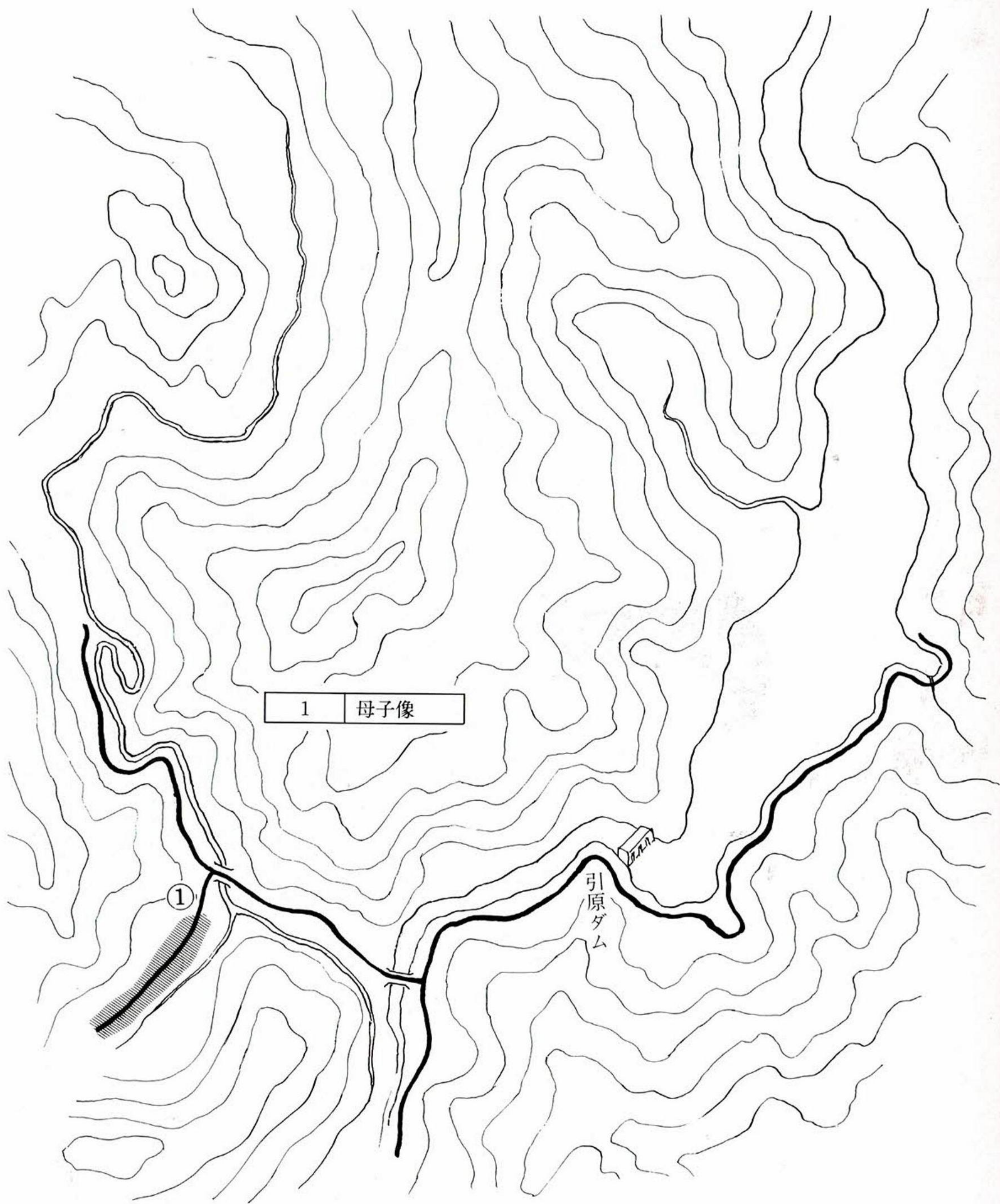
幸福留蔵は明治43年三保ヶ関部屋入門、大正3年十両に昇進、大正5年入幕し大正7年小結となる。大正9年5月場所に於て優勝する。大正10年大関となり大正13年引退する。



音水地圖 所在位圖

音 水

音水地区 所在位置図



音 水



母子像

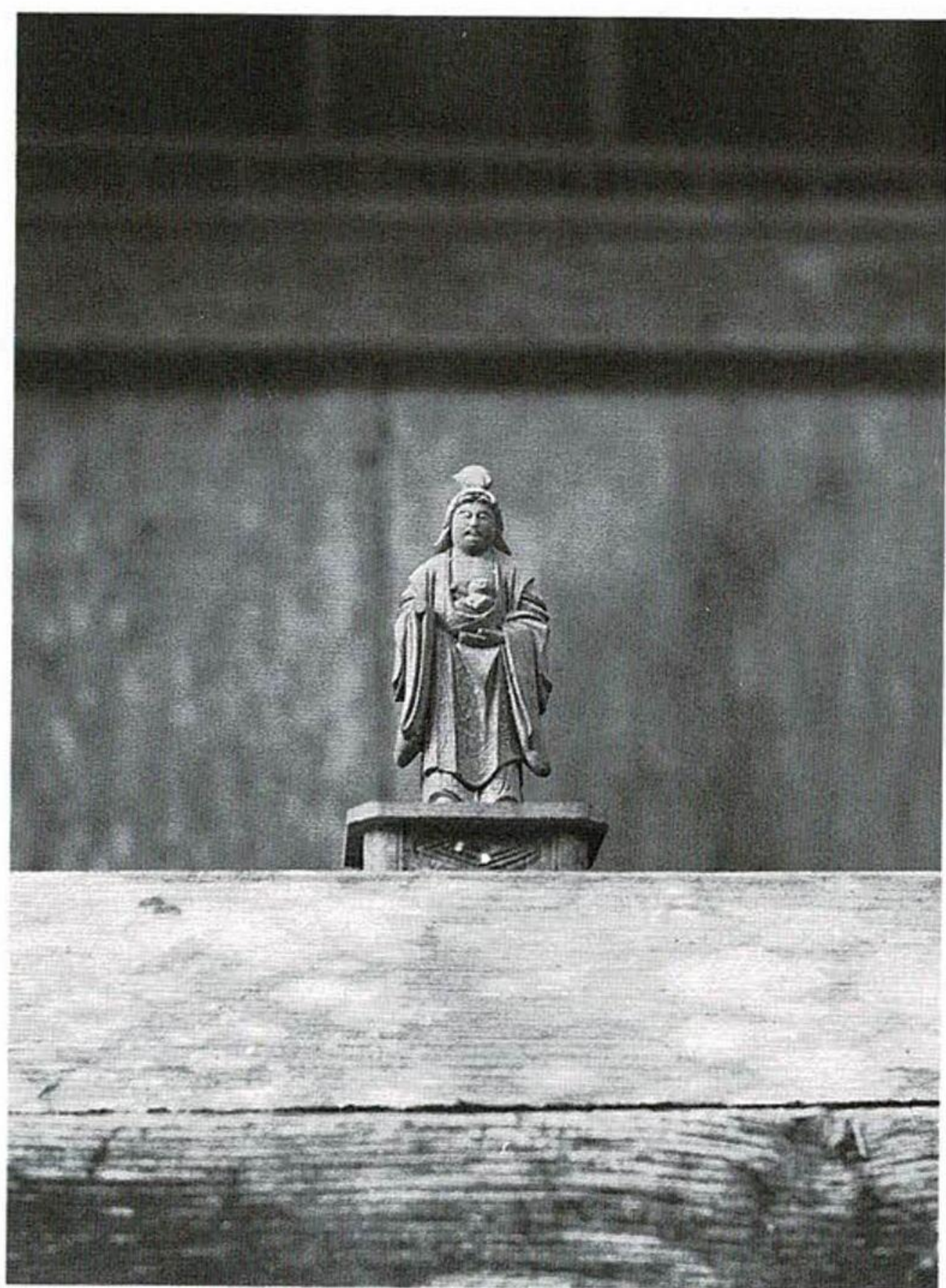


写真 No.1

場 所 音水林道沿

管 理 者 江戸時代

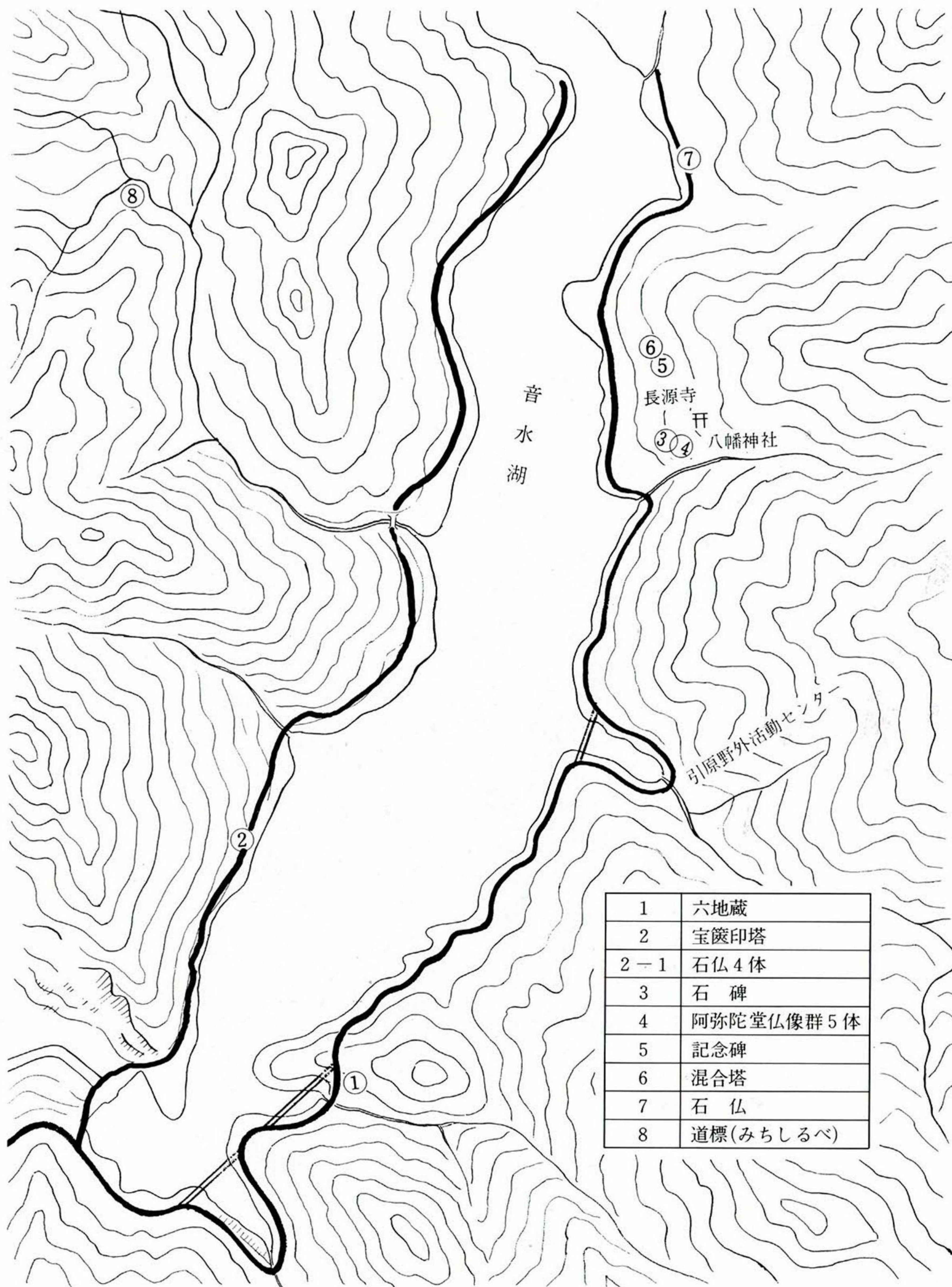
管 理 者 音水部落

物件にまつわる話

古くから子供の守り尊として祀られ
出産と同時に参拝して子供の成長安泰
を祈願した。他部落からも参拝者が多
く、毎月28日をお祭日としてだんごを
供え祈願する。

引 原

引原地区 所在位置図



1	六地藏
2	宝篋印塔
2-1	石仏4体
3	石碑
4	阿弥陀堂仏像群5体
5	記念碑
6	混合塔
7	石仏
8	道標(みちしるべ)

引 原



六地蔵



写真 №.1

場所 引原部落のトンネル前

造立時期 安永9年
(1780年)

所有者 引原部落

管理者 引原部落

物件にまつわる話

昔の旧国道の辻に建っていたが、昭和32年ダム建設により国道も変り旧地の辻に^{ちな}因んで現在の地に建設したものである。

宝篋印塔

写真 №.2

場所 引原部落のダム西側の墓場

造立時期 室町時代中期
前半 (1450年
前後)

所有者 引原部落

管理者 引原部落



物件にまつわる話

ダム建設 (昭和33年3月完成) により南部の人達の墓を同地に大師堂と共に移転。

造立は室町時代 (1334年～1573年)

中期前半と思われる。

石 仏 4 体

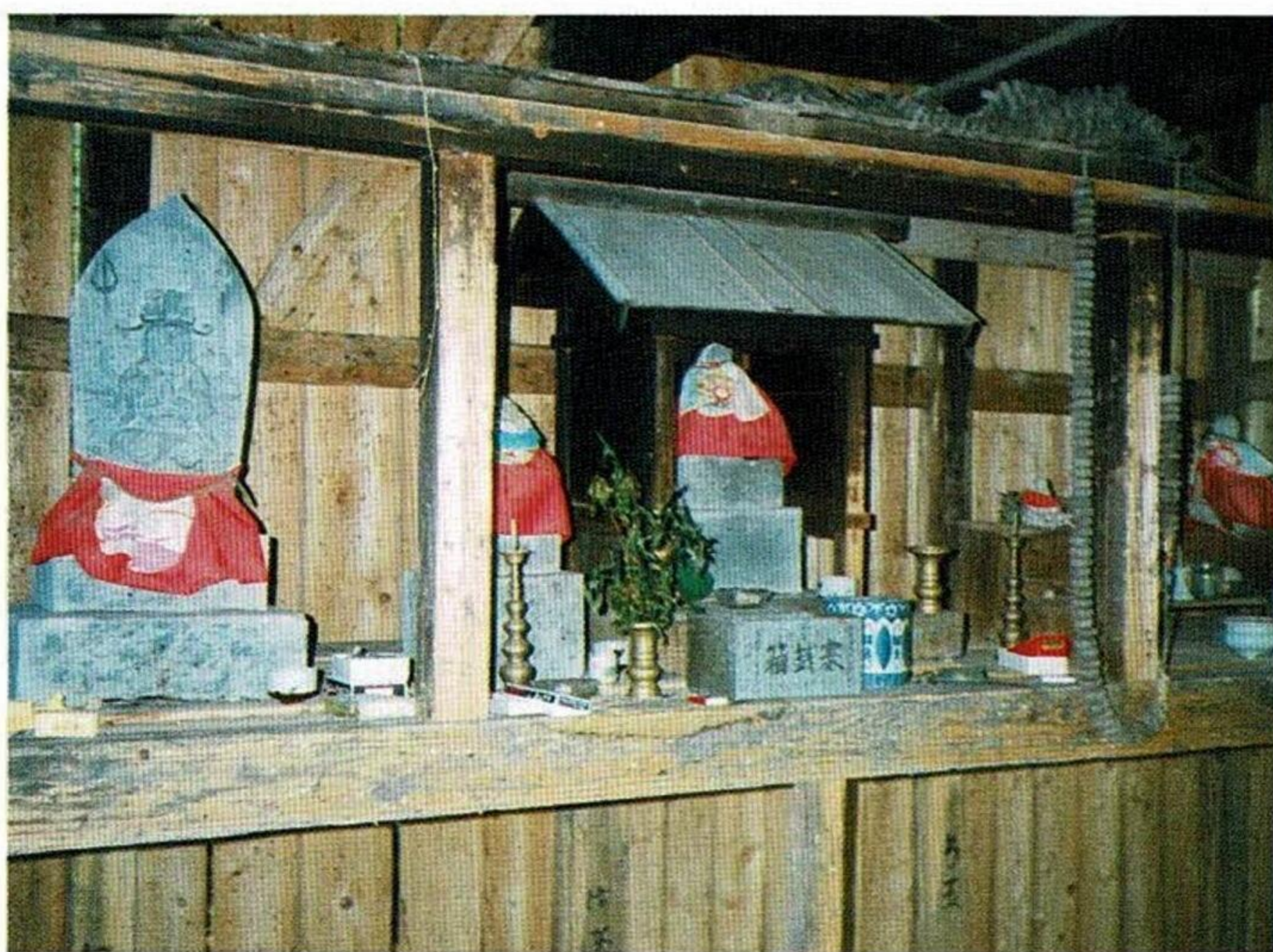


写真 No.2-1

場 所 引原部落のダム西側 大師堂内

造立時期 石仏(1)明治16年未8月
石仏(2)大正3年

所有者 引原部落
管理者 引原部落

物件にまつわる話

引原部落の人達により祀られていたが、昭和32年ダム建設の為、大師堂を同地に移転した。

石 碑

写真 No.3

場 所 引原部落の八幡神社鳥居の横

造立時期 明治6年(1873年)西10月

所有者 引原部落

管理者 引原部落

物件にまつわる話

先祖	田村氏助
京都清水より播州清水移後	大同二年八月十五日
当村切開住居	(807年)
伴	尾瀬太夫
孫	治郎 つま をいち
同	五郎 つま をすき
ヒイ孫	彦右衛門
明治六西十月	建立
発起人	當村 市兵エ

と刻まれている。



阿弥陀堂仏像群 5体



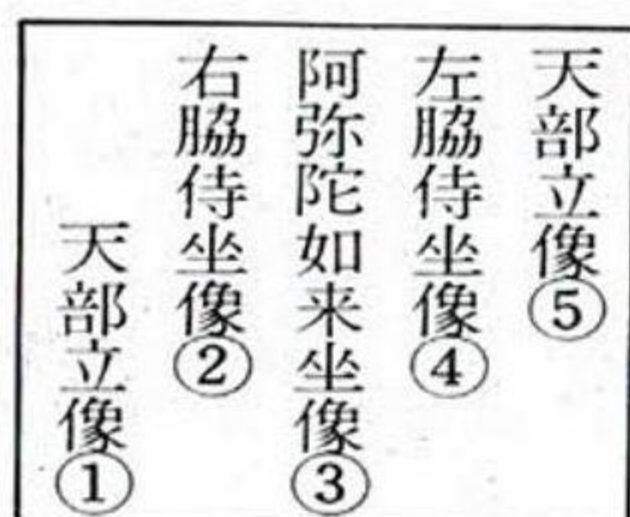
天部立像 ①



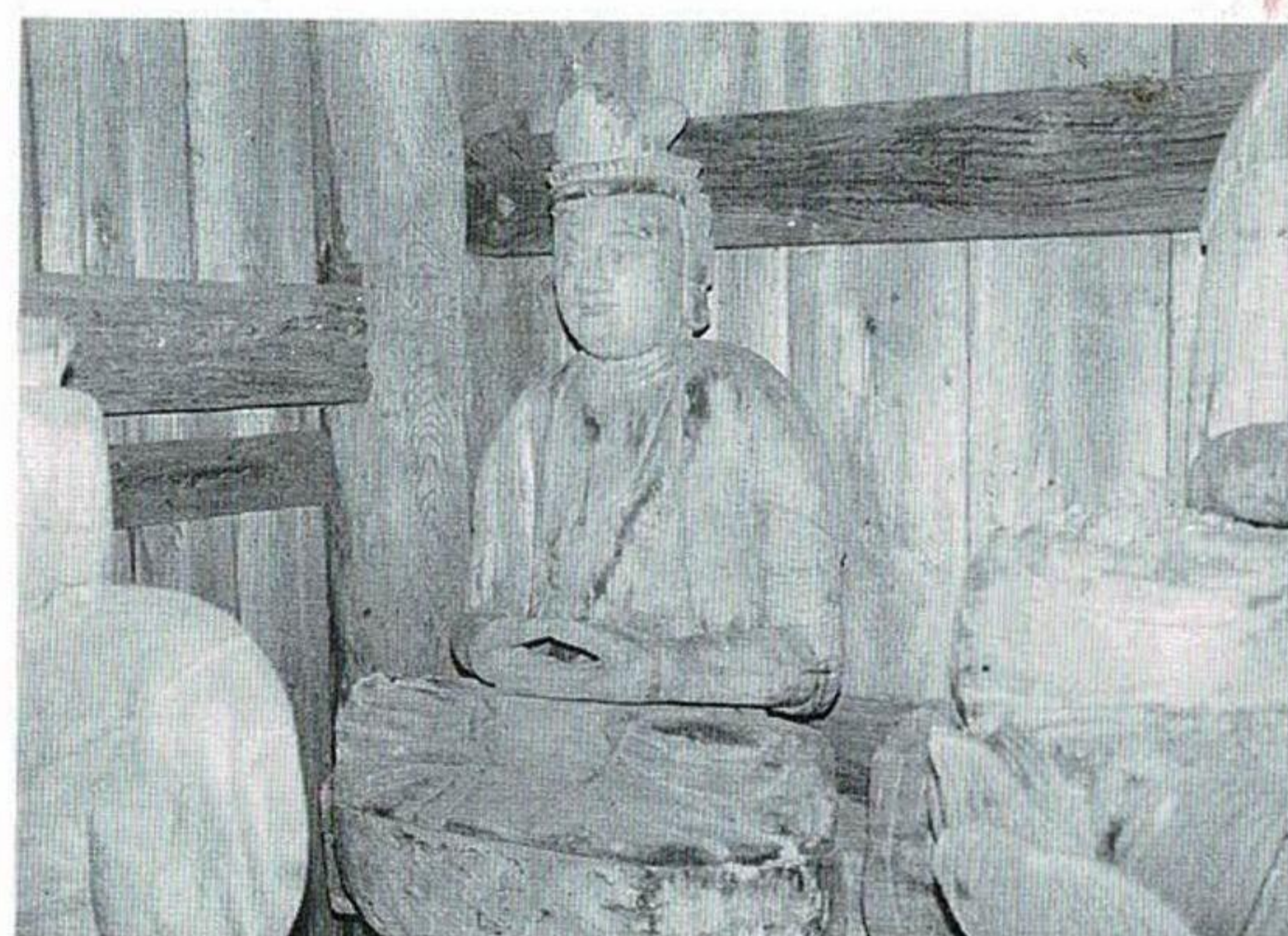
天部立像 ⑤

道谷、鹿伏のお堂と同様、素人仏師の作と考えられる。道谷、鹿伏の作者と同じかどうかは不明。今後の考察が必要。

堂内配置図



*②③④は
阿弥陀三尊



右脇侍坐像 ②

写真 No.4

場所

引原部落の八幡
神社境内

建立時期

江戸時代

所有者

八幡神社

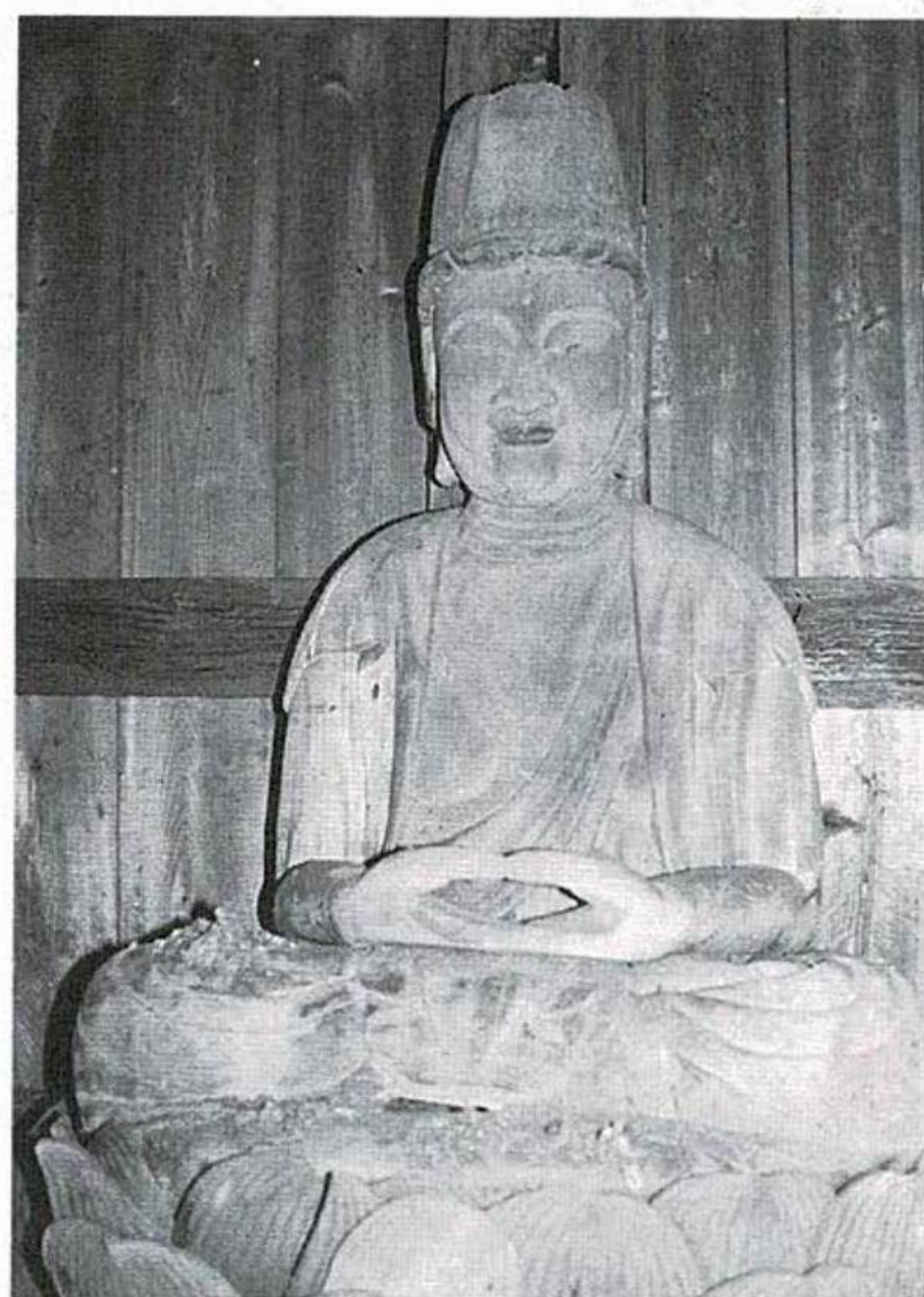
管理者

八幡神社

物件にまつわる話

三尊はいずれ
も法界定印を結
ぶ。

一
木造。



阿弥陀如来坐像 ③



左脇侍坐像 ④

記念碑



写真 №.5

場 所 引原部落の長源寺の上
墓場

造立時期 明和9年壬辰（みずのえたつ）
2月吉日（1772年）

所 有 者 田村角太郎

管 理 者 田村角太郎

物件にまつわる話

田村角太郎の先祖田村多門が伊勢大神宮と愛宕山参拝33度の願をかけ果たしたので記念に建てたものといわれる。

混合塔

写真 №.6

場 所 引原部落の長源寺住職宅の裏
の墓

造立時期 明和6年丑2月9日（1769年）

所 有 者 加納俊清

管 理 者 加納俊清

物件にまつわる話

引原ダム移転と共に寺院・墓地等
同地に移転。五輪塔や宝篋印塔の残欠を
寄せ集めて建てている。



石 仏



写真 No.7

場 所 引原部落の^{おぼら}小原地区
ダム沿線国道側

造立時期 昭和32年5月

所有者 引原部落

管理者 引原部落

物件にまつわる話

引原部落^{おぼら}小原地区の里人達が、ダム建設の為、新天地に立ち退く最後の記念に造立したものである。裏面に造立者の氏名も刻まれている。

道標 (みちしるべ)

写真 No.8

場 所 引原ダム西側
音木越林道端

所有者 引原部落

管理者 引原部落

物件にまつわる話

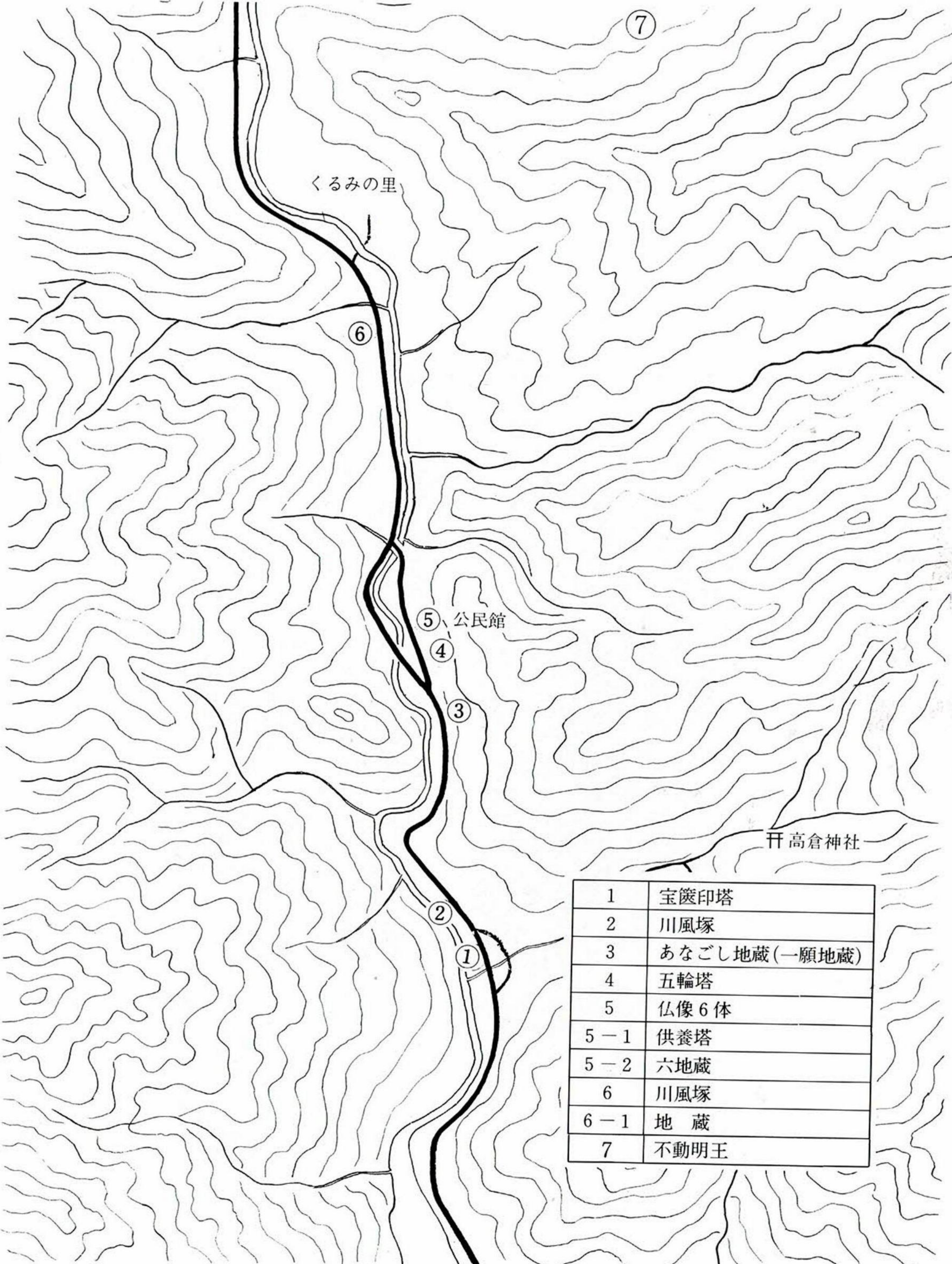
右音水、左山みち
立 者 源吉
昭和4年3月

と刻まれている。



鹿 伏

鹿伏地区 所在位置図



1	宝篋印塔
2	川風塚
3	あなごし地蔵(一願地蔵)
4	五輪塔
5	仏像6体
5-1	供養塔
5-2	六地蔵
6	川風塚
6-1	地蔵
7	不動明王

鹿 伏



宝篋印塔



写真 №.1

場所 鹿伏部落の国道の西側^{した}の方

造立時期 室町時代

管理者 小椋龍雄

物件にまつわる話

石積みされた壇上に建っており室町時代と思われ^{ぎょうかい}凝灰岩で造られている。

高さ90cm

川風塚

写真 №.2

場所 鹿伏部落の鹿伏と石亀間の国道西側

造立時期 昭和13年8月

管理者 平桑峯雄

物件にまつわる話

初代川風、小椋憲治氏より二代目川風、平桑清太郎氏が受けつぎ、角力会をもちあげるのでこれを記念してたてる。



あごなし地蔵（一願地蔵）



写真 №.3

場所 鹿伏部落の石亀（集落）の南
100m 国道右脇。

造立時期 昭和41年6月

管理者 鹿伏部落

物件にまつわる話

昔から口の病気を治す。特に歯いたによくきく地蔵様として遠方からもよくお参りに来られた。

又、一願地蔵とも言い、一つの願いなら必ず聞いて下さると言うことで信者も多かった。

五輪塔

写真 №.4

場所 鹿伏部落の公民館の南

造立時期 室町時代中期

物件にまつわる話

平家の落人の墓と伝えられている。



仏像6体



写真 №.5

場所 鹿伏部落の公民館前

造立時期 明治時代

管理者 鹿伏部落
石亀地区中

物件にまつわる話

- ① 弘法大師
- ② 毘沙門天
- ③ 薬師如来
- ④ 天部像

⑤ 阿弥陀如来

⑥ 不動明王

(向かって左より)

尚、細部については未調査である。

供養塔

写真 №.5-1

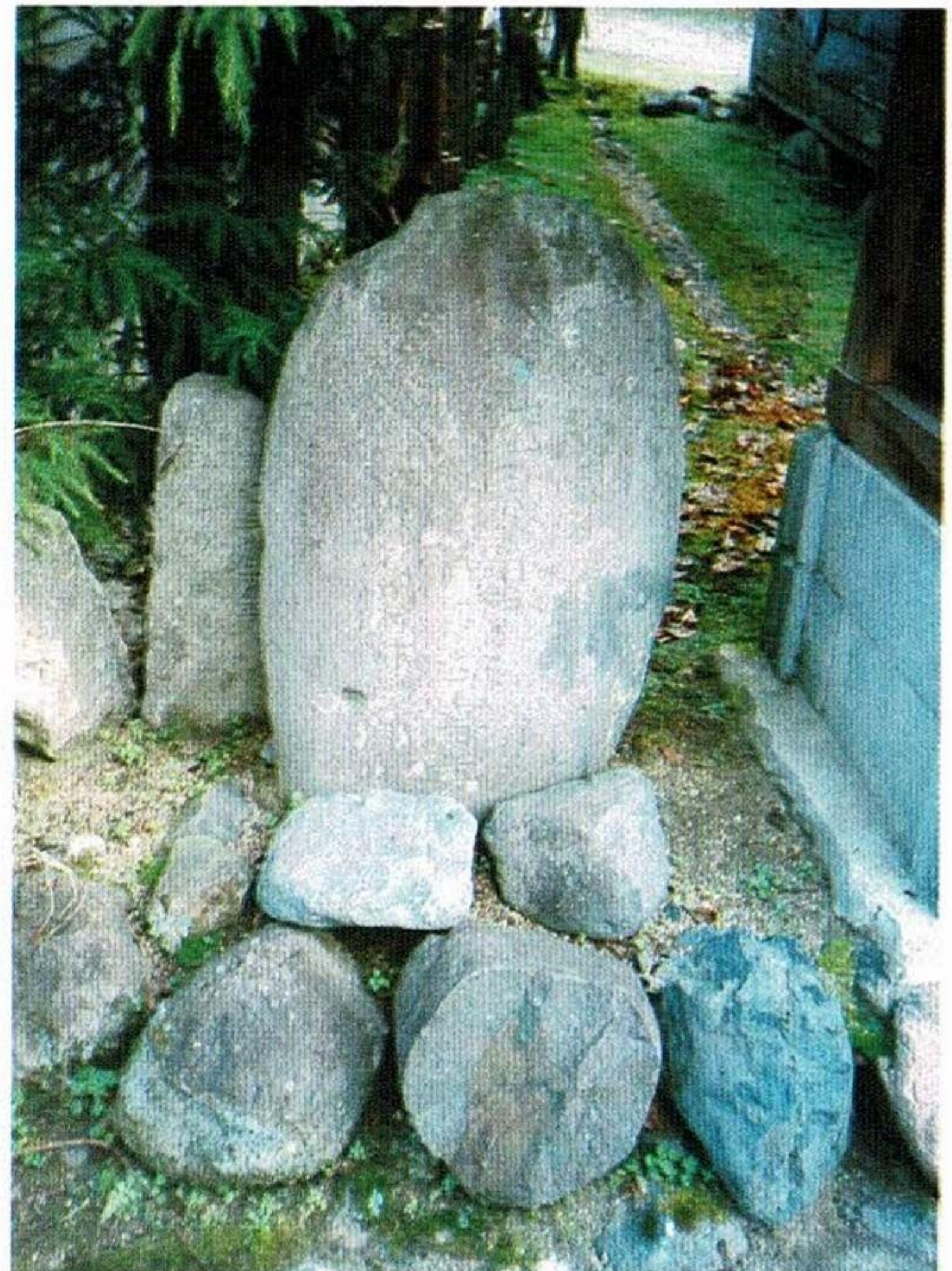
場所 鹿伏部落の鹿伏公民館前

造立時期 明治33年

管理者 鹿伏部落

物件にまつわる話

法界萬靈平等普塔



六地蔵



写真 №.5-2

場所 鹿伏部落の石
亀

石亀旧国道端

造立時期 江戸時代中期

管理者 鹿伏部落

石亀隣保

物件にまつわる話

部落の子供守護として
祀られた。

川風塚

写真 №.6

場所 鹿伏部落^{みやなか}の宮中旧道端

造立時期 明治13年10月

管理者 小椋^{よしはる}美治

物件にまつわる話

小椋憲治氏は維新の改革に郷民の良き指導者となり又鹿伏部落有林1,000町歩の育林管理に長く尽されたが、地方力士としても名誉高く川風の号を受けたので、これを記念して部落中央に記念塚を建てる。



地蔵



写真 №.6-1

場所 鹿伏部落の宮
中旧道端

造立時期 文政年間
(1818年～
1830年)

管理者 志水昌宏

物件にまつわる話

昔は他部落より信者が毎日お参りしていた

といわれる。

左側の仏さんは金、銅（ブロンズ）で作られ、聖観音と言う。

不動明王



写真 №.7

場所 鹿伏部落の奥
通称豆いり谷、戸倉中間川端

造立時期 江戸時代中期

管理者 鹿伏部落

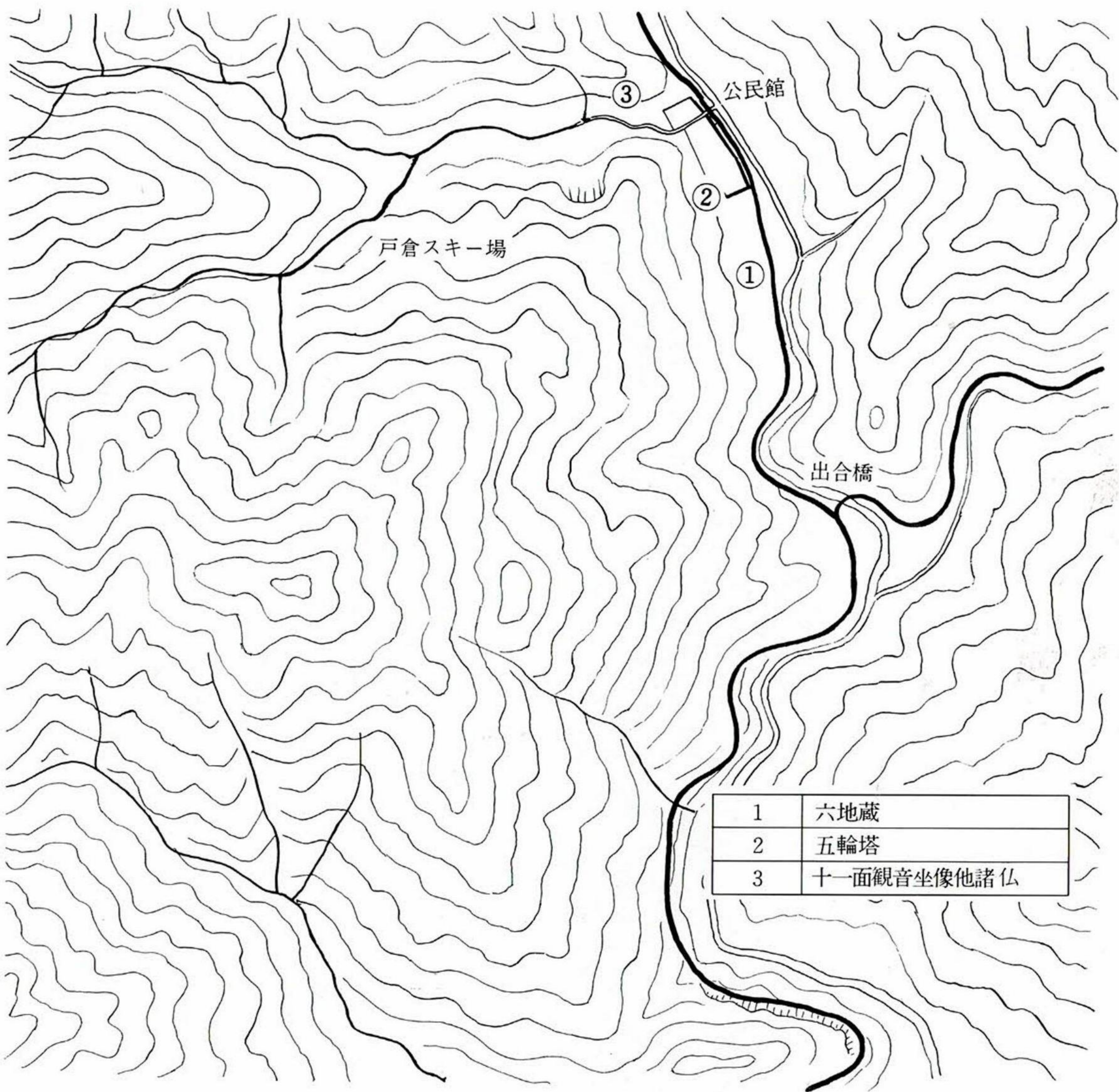
物件にまつわる話

田の守り神。井堰^{いせき}の守り神として
お祀りしている。

戸 倉

戸倉地区 所在位置図

戸大森神社



1	六地藏
2	五輪塔
3	十一面観音坐像他諸仏

戸倉



六地蔵

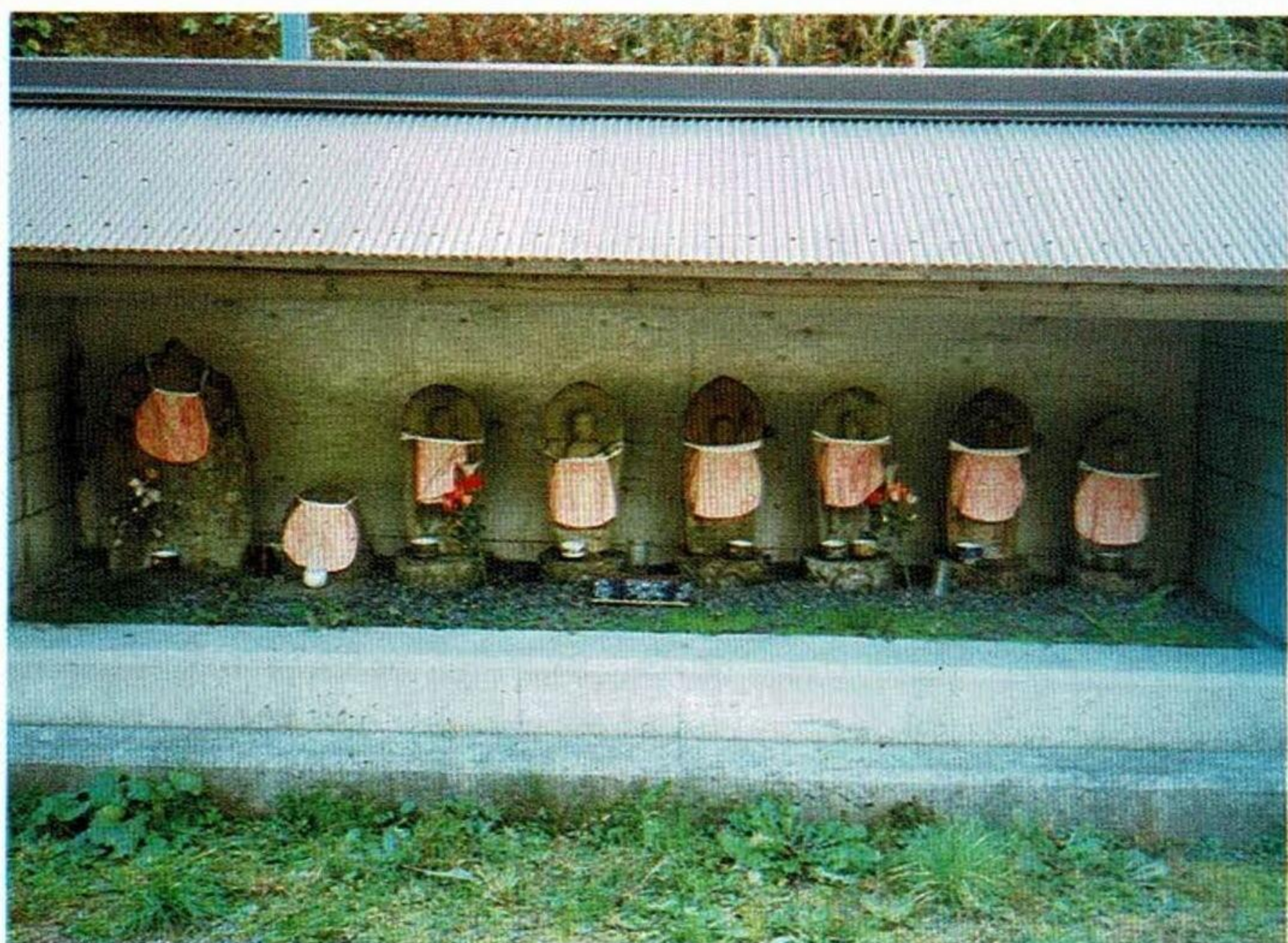


写真 №.1

場所 戸倉部落の南方
国道29号線沿い

造立時期 享保12年
(1727年)

8月13日

管理者 戸倉部落

物件にまつわる話

六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人道・天道）に現われて、衆生（一切の生物主に人間）を教え導き救われる6人の仏さんで、1. 禅味地蔵。2. 牟尼地蔵。3. 護讃地蔵。4. 諸龍地蔵。5. 救勝地蔵。6. 不休息地蔵。と云い、それぞれ持物、手の動作が違っている。

五輪塔

写真 №.2

場所 戸倉部落の上垣健次郎氏宅裏

造立時期 桃山時代～江戸時代初期

管理者 上垣健次郎

物件にまつわる話

波賀町内の五輪塔は室町時代（1393～1573）の中期以降に建てられたものが多いといわれている。そのうちのひとつと思われる。



十一面観音坐像他諸仏



写真 No.3

場所 戸倉部落の公
民館横

建立時期 明治27年9月
吉日

管理者 戸倉部落

物件にまつわる話

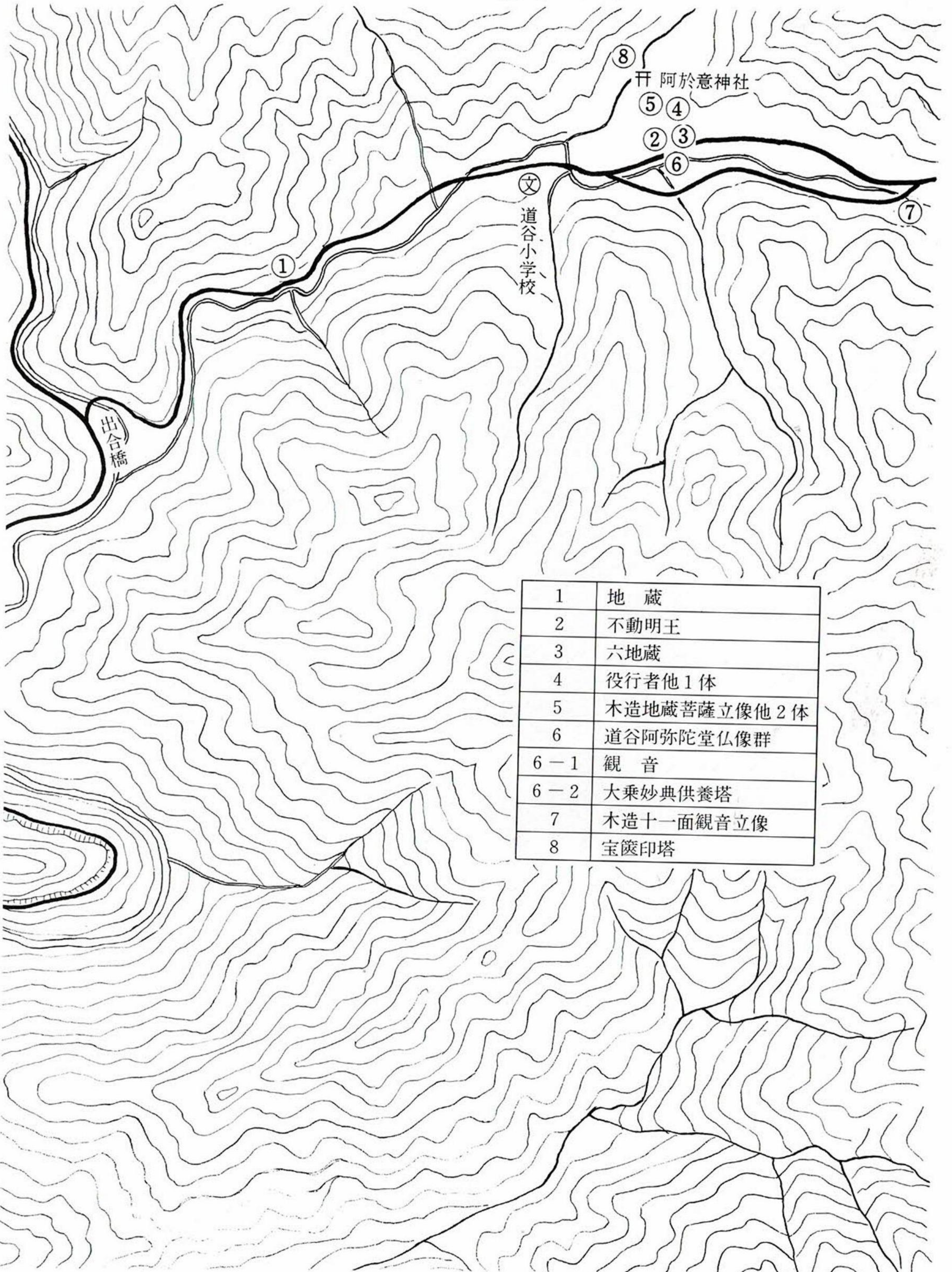
戸倉部落は明治27年に大火があり、部落殆んどが全焼したので、其の後当時の部落役員大前忠五郎、上垣貞治郎等が発起人となり建立したものである。

仏師	鳥取県鳥取	仏師磨人
開願師	長源寺住職	金岳秀本

道 谷

道谷地区 所在位置図

新戸倉スキー場



1	地藏
2	不動明王
3	六地藏
4	役行者他1体
5	木造地藏菩薩立像他2体
6	道谷阿弥陀堂仏像群
6-1	観音
6-2	大乘妙典供養塔
7	木造十一面観音立像
8	宝篋印塔

道 谷



地蔵



写真 No.1

場所 戸倉部落の字杉谷 通称大岳^{おおだけ}

出合橋より約800m北

造立時期 嘉永6年(1853年)癸丑10月

管理者 道谷部落

物件にまつわる話

昔から大きな岩があり、交通危険な箇所であった為、地蔵様をおまつりし交通安全を祈願する為に建てられた。後、道路改修が行われ、県道となり、道巾も拡張される毎に岩を壊して現在の所に安置している。

嘉永6年(1853)癸丑10月吉日
谷中施主為安全
戸倉村庄屋忠右衛門
文中 小椋健治郎

と刻まれている。

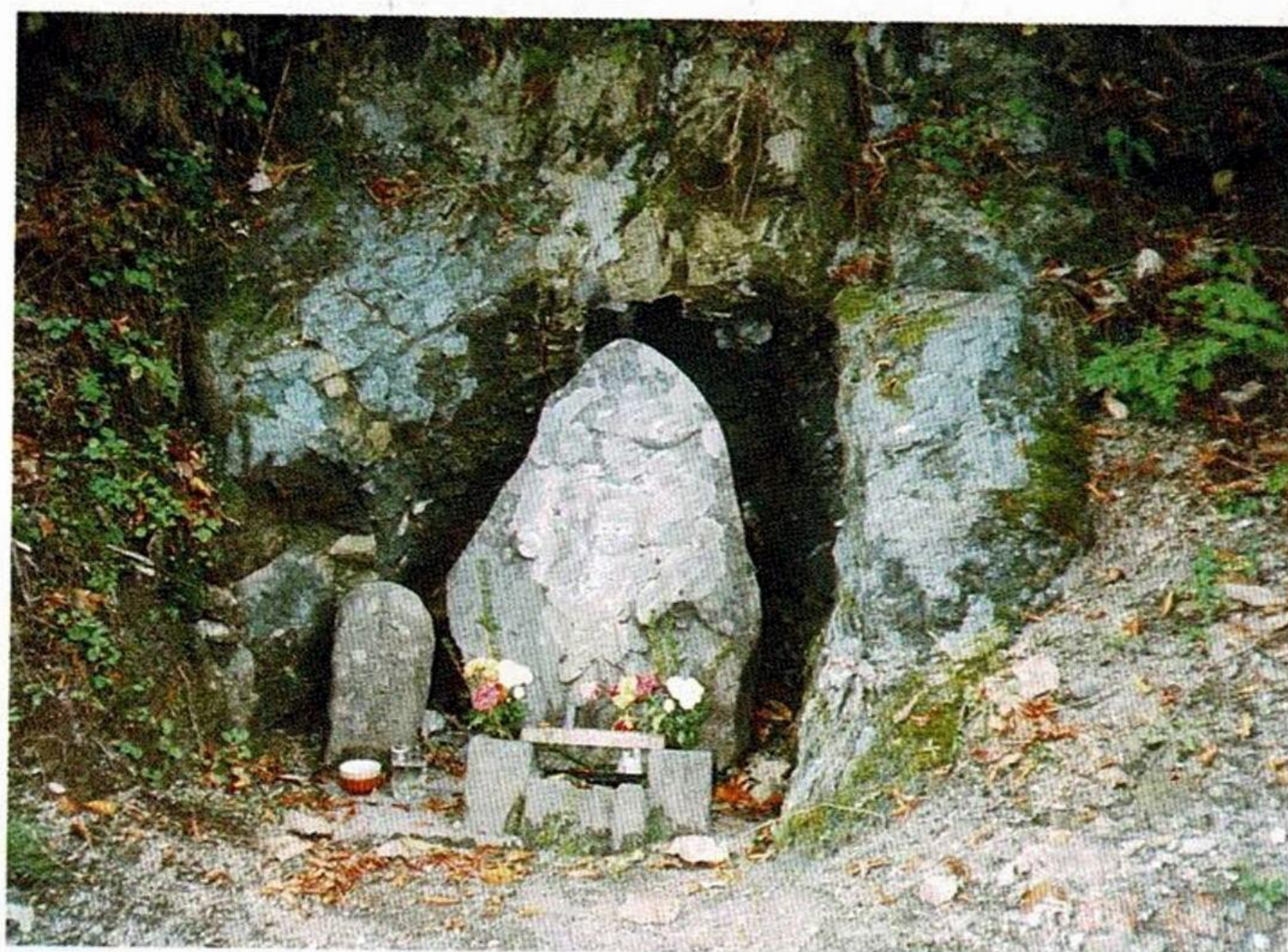
不動明王

写真 No.2

場所 道谷部落の宮ノ坂 旧道端

造立時期 江戸時代

管理者 道谷部落



物件にまつわる話

道谷スキー場の中腹にあったが昭和62年4人乗りリフト建設地にあたり、

その真上を人が通る場所になるので協議し、現在地に移転した。

不動明王とは大日如来の変身で、一切の煩惱(迷い)を断じ災悪毒を除き諸願を成就させ、財宝を得る功能がある。
じょうじゅう

字の如く 不動堅固で動揺しない。

六地蔵

写真 №.3

場所 道谷部落の宮
ノ坂 岸本清
美さん宅の下
造立時期 江戸時代中期

管理者 道谷部落



物件にまつわる話

六道に現われて衆生
(一切の生物) 教化、
さいど 済度する六種の地蔵菩薩。延命。宝処。宝手。持地。宝印。
けんごい 堅固意の称。六道とは、六つの迷いの道と言う意味で地獄・
餓鬼・畜生・修羅・人間・天の道のことを言う。

えんのぎょうじゃ

役行者他1体



写真 №.4

場所 道谷部落の愛宕山下
造立時期 江戸時代
管理者 道谷部落

物件にまつわる話

頭上にはった大木の下にあり、昔より盆踊り（豊年祈願のため）には山上大権現としておまつりし祈願していた。
行者像は地石に彫刻したように見えるが、石の質が異なり、やはり安置したものと思われる。

木造地藏菩薩立像他2体

写真 No.5

場所 道谷部落の愛
宕山上

建立時期 1690年頃

管理者 道谷部落

物件にまつわる話

毎年の奉納踊りは必ず
この山へ登って行う。
年一回の祭日は旧暦6月
24日となっている。



(中央 木造地藏菩薩立像、向って左 木造不動明王立像、向って右 木造毘沙門天立像)

道谷阿弥陀堂仏像群



No. 1 毘沙門天



No. 2 阿弥陀如来



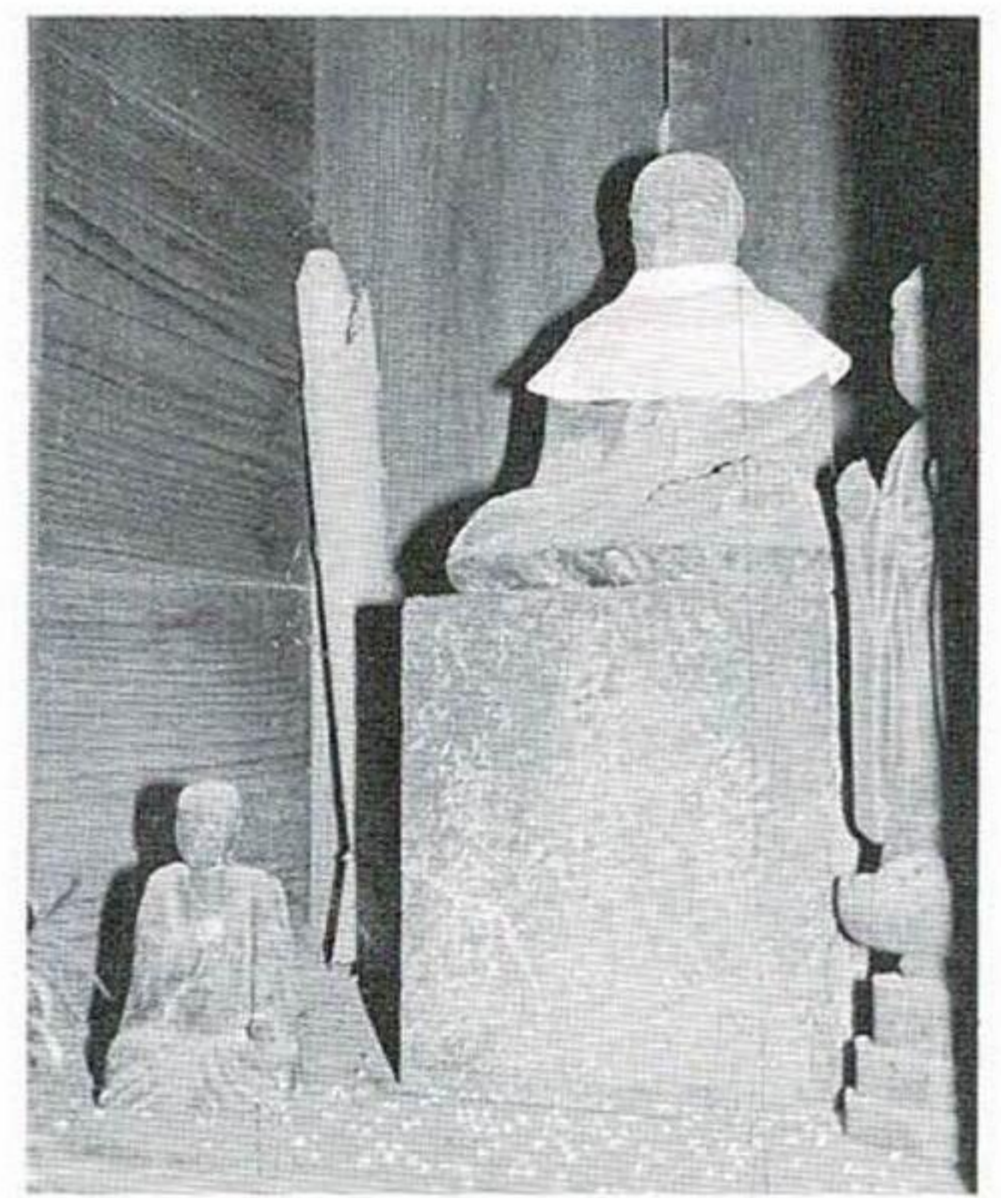
No. 3 薬師如来



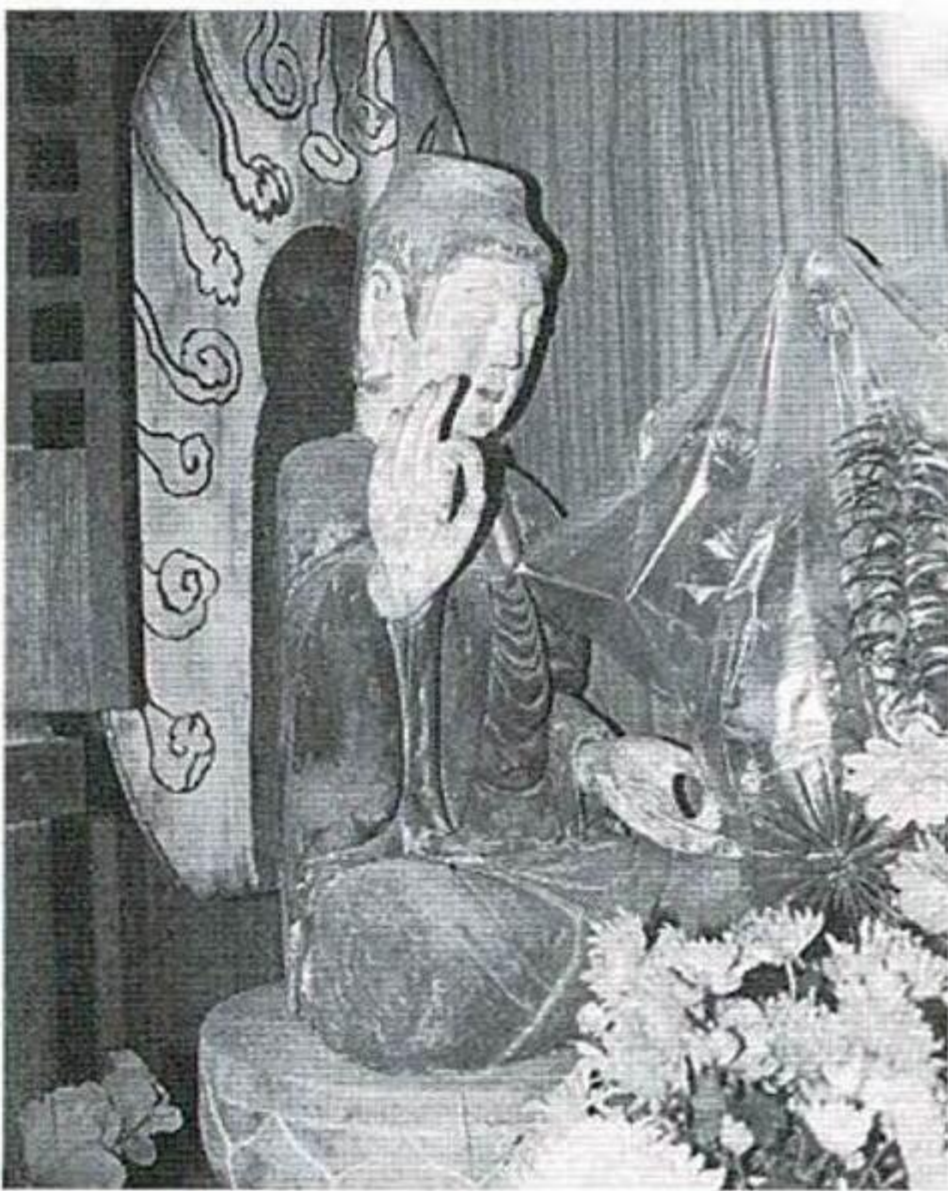
No. 4 不動明王



No. 5 阿弥陀如来



No. 6 弘法大師



No. 7 阿弥陀如来

写真 No. 6

場 所 道谷部落の阿弥陀堂内。

建立時期 江戸時代頃

管 理 者 道谷部落

物件にまつわる話

同じ仏像があるが建立時代は異なり、又、場所も異なっていたように思われる。散在は祈願に心治まらず、その時代に応じて里人達の協議により堂も拡張改築し、一堂に納め奉り、祈願して今日に及んだものと思われる。

観 音

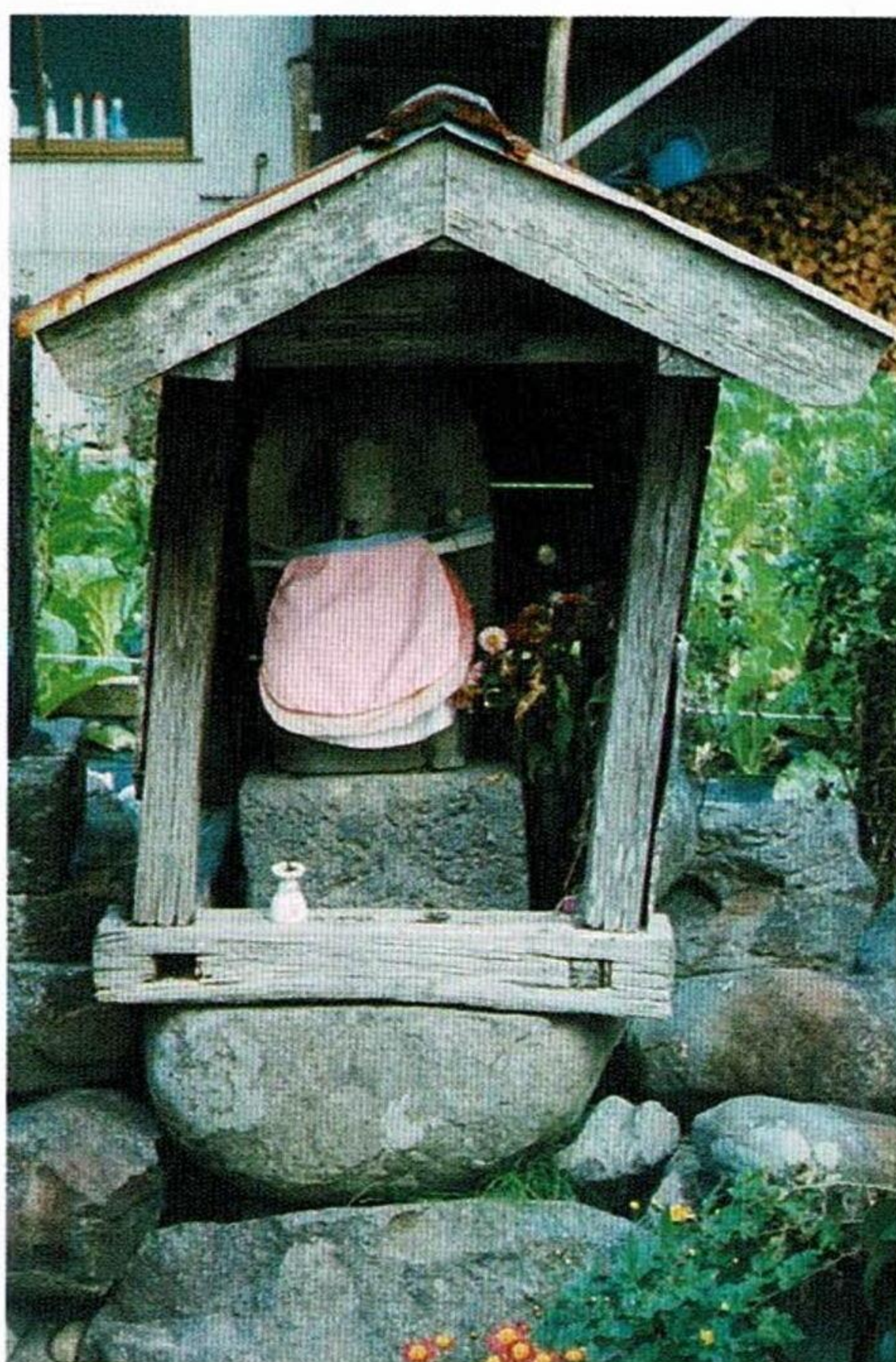


写真 №.6 - 1

場 所 道谷部落の阿弥陀堂の前

造立時期 不明

管 理 者 道谷部落

大乘妙典供養塔

写真 №.6 - 2

場 所 道谷部落の阿弥陀堂の前

造立時期 宝暦4年9月15日 (1754年)

管 理 者 道谷部落

物件にまつわる話

天下太平

大乘妙典供養塔

国土安穩 宝暦4年 9月15日

播州宍粟郡道谷村 甚右衛門

と刻まれている。

一般には亡者の冥福を祈り、合せて
天下太平を祈る塔と解する。



木造十一面観音立像



写真 No.7

場 所 道谷部落の字畑ヶ谷

建立時期 文政2年(1819年)

管 理 者 道谷部落

物件にまつわる話

村内安全、五穀成就、諸人快樂を祈願し、文政2年再建。明治20年旧閏4月吉日に鳥取県上嶋郡の大工さんにより再建、更に県道敷設のため昭和50年頃移転改築。

宝篋印塔

写真 No.8

場 所 道谷部落のスキー場入口

造立時期 室町時代中期前半

管 理 者 道谷部落

物件にまつわる話

道谷小学校のそばにあったものを現在地に移転させたもの、流紋岩質凝灰岩製。相輪は九輪の7輪を残して上部が欠損し、笠部は5段式、塔身は月輪がなく金剛界四仏を刻む。



波賀町全図

総面積 一五八・七平方町

凡例	
——	市界
---	町界
---	村界
---	区界
---	道
---	河川
○	市街地
○	町街地
○	村街地
X	郵便局
+	学校
△	神社
△	寺
△	神社
△	寺
△	神社
△	寺
△	神社
△	寺
△	神社
△	寺

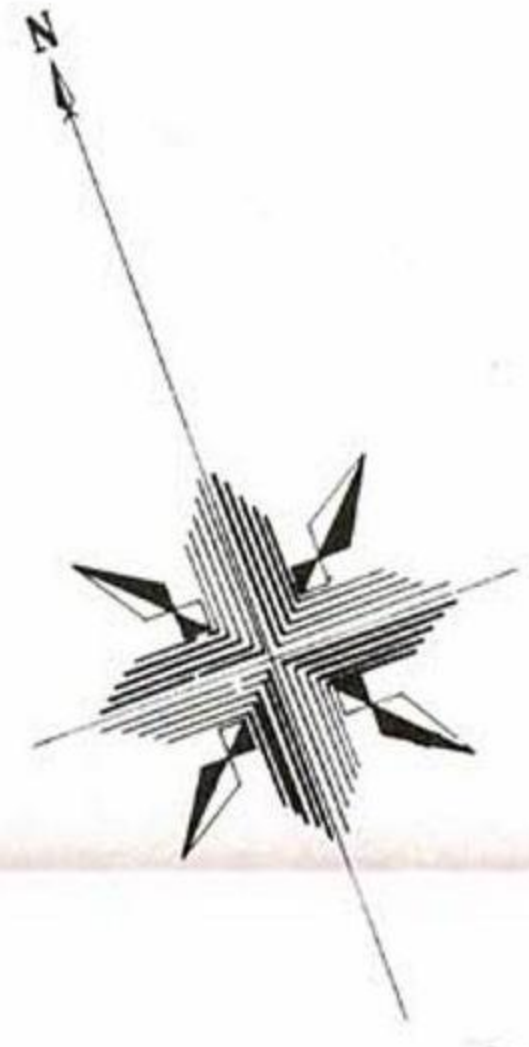
養父郡
大屋町

鳥取県
八頭郡
若桜町

一宮町

千種町

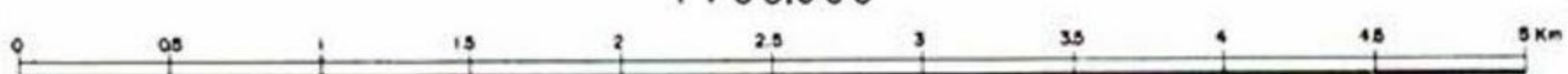
山崎町



兵庫県略図



1:68,000



あ と が き

昭和61年8月28日、波賀町指定文化財として彫刻をはじめ15件を指定いたしました。その後、日見谷、火魂神社の大ムクノキ、続いて小野の大トチノキが兵庫県指定文化財として指定を受けました。

こうしてみると波賀町内にも、祖先の遺産ともいえるべき立派な文化財が多くあることに気づきます。

昭和62年3月31日に、波賀町指定文化財を収録し、文化財シリーズ第1集として発行して以来、2年をかけて各部落の区長さんをはじめ多くの皆さんのご協力を得て、石造、石仏、仏像を中心に、調査、収録、編集のうえ、ここに文化財シリーズ第2集として発行の運びとなりました。

文化財、特に野の仏とも言うべき五輪塔などについては、時代の流れとともに消え忘れ去られていく事が多くなっています。こんな時代だからこそ少しでも広く収録し町民の皆さんに知っていただき、理解を深め遠い祖先をうやまい、後世のために残しておく事は、現在に生きる私達の責務ではないでしょうか。

最後にこの冊子は、以上の様な目的で発行したものであり、指定文化財を目的としたものではありませんので、質的な満足感を与えるものでないかもしれません。しかも皆さんにこの冊子を見ていただくと、まだまだ収録しきれないものがあると存じますが、今後とも引き続き調査を重ね、機会をみて収録したいと考えております。

波賀町教育委員会

平成3年3月31日

波賀町文化財審議委員

委員長	小林盛三	委員	小倉国男
委員	小倉与市郎	〃	山元嘉高
〃	西岡佐典	〃	牛谷修三
〃	田住満夫	〃	小椋政治
〃	谷口美津夫	〃	上垣健次郎

波賀町ふるさとの文化財

平成3年3月31日

編集・発行 宍粟郡波賀町教育委員会
印刷 (株)支林館印刷所
